SONY

4-288-171-**01**(1)

レンズ交換式デジタルカメラ

αハンドブック

目次

撮りたい写真から探す

メニューから探す

索引

JP

NEX-5N

ハンドブックの便利な使いかた

表紙や本文中の右側にあるボタンをクリックすると、該当ページに移動します。
見たい機能を探したいときに便利です。

本文中に記載されたページ数の部分をクリックしても、各ページに移動します。

本文中のマーク/記載内容について

目次
撮りたい写真から探す
メニューから探す
索引

目次

ご使用の前に

基本操作

コントロールホイールの機能を使う

マイフォトスタイルの機能を使う

次のページにつづく↓

メニュー機能を使う

他機とつなぐ

困ったときは

その他

索引

撮りたい写真から探す

「こんな写真が撮りたいのだけど、どうやって撮影してよいかわからない」
そんな疑問を持ったら、これらの写真例からお気に入りの写真を探して、クリックしてみましょう。

写真をクリックすると、そのような写真を撮るためにおすすめな機能のページに飛びます。カメラに表示される撮影アドバイスとともに、参考にしてください。
(　)の数字は、参照ページです。

笑顔の瞬間を撮る(73)

スマイルシャッター

笑顔を検出すると自動で撮影します。

1 MENU→［カメラ］→［スマイルシャッター］→［入］を選ぶ。
2 笑顔を検出する感度を設定する場合は、Option→希望の設定を選ぶ。
3 笑顔を待つ。
スマイルレベルがインジケーターの◀を超えると、自動で撮影される。
スマイルシャッター中にシャッターボタンを押しても撮影できる。撮影後はスマイルシャッターに戻る。
4 終了するときは、MENU→［カメラ］→［スマイルシャッター］→［切］を選ぶ。

顔検出枠(オレンジ色)
スマイル検出感度インジケーター

	入	スマイルシャッターを使う。
✓	切	スマイルシャッターを使わない。

Optionで笑顔を検出する感度を設定できます。

	(大笑い)	大笑いで検出する。
✓	(普通の笑顔)	普通の笑顔で検出する。
	(微笑み)	微笑み程度でも検出する。

ご注意
• 以下のときは、［スマイルシャッター］機能は使えません。
– ［シーンセレクション］の［手持ち夜景］
– ［人物ブレ軽減］
– ［スイングパノラマ］
– ［3Dスイングパノラマ］
– ［マニュアルフォーカス］
– ［プレシジョンデジタルズーム］
• メモリーカードがいっぱいになると自動的に終了します。
• 状況によっては笑顔が正しく検出できない場合があります。
• ドライブモードは、［1枚撮影］または［リモコン］になります。

73JP
次のページにつづく↓

次のページにつづく↓

人物を撮る

背景をぼかして、主要被写体をくっきり撮る（32）

明るさを変えて同じ場面を撮る（47）

笑顔の瞬間を撮る（73）

ろうそくの灯りで撮る（54）

夜景を背景に人物を撮る（52）

動いている人物を撮る（85）

集合写真を撮る（45、46）

逆光で撮る（64）

肌をなめらかに美しく撮る（75）

次のページにつづく↓

マクロで撮る

背景をぼかす（32）

室内で色合いを合わせる（86）

花をきれいに撮る（52）

フラッシュ発光量を減らして撮る（90）

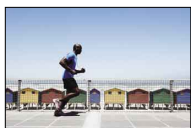
手動でピントを合わせる（65）

きれいに見える明るさで撮る（41）

室内で手ブレを抑える（85）

おいしそうに撮る（41）

次のページにつづく↓

風景を撮る

青空を鮮やかに撮る（41）

水の流れを撮る（61）

緑を鮮やかに撮る（95）

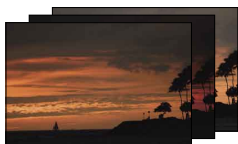
紅葉を鮮やかに撮る（95）

パノラマで超広角写真を撮る（55）

明暗差の大きい風景を撮る（91）

室外と室内の明暗を撮る（91）

背景をぼかして撮る（32）

水平を保って撮る（110）

次のページにつづく↓

夜景/夕景を撮る

次のページにつづく↓

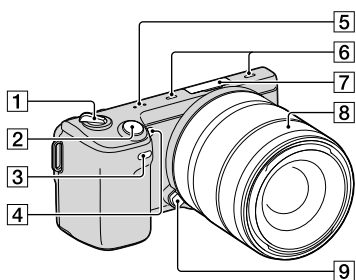
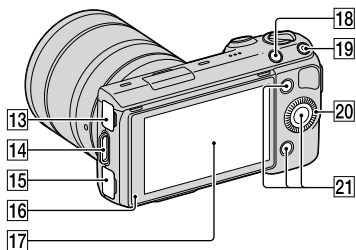
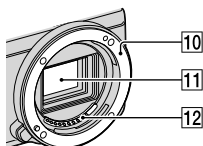
動きの速いものを撮る

動きを追いかけながら撮る（68）

躍動感を表現する（61）

動くものを待ち構えて撮る（65）

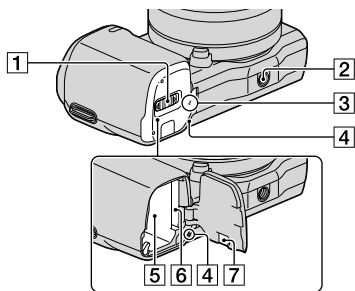
ベストな瞬間を捉える（44）

各部の名前

レンズ取りはずし時

( )の数字は、参照ページです。

1 ON/OFF（電源）スイッチ
2 シャッターボタン(26)
3 リモコン受光部(48)
4 AF補助光/セルフタイマーランプ/スマイルシャッターランプ
5 スピーカー
6 マイク[1)]
7 スマートアクセサリーターミナル2[2)]
8 レンズ
9 レンズ取りはずしボタン
10 マウント
11 イメージセンサー[3)]
12 レンズ信号接点[3)]
13 (USB)端子(168)
14 ショルダーストラップ取り付け部
15 HDMI端子(160)
16 明るさセンサー
17 液晶モニター /タッチパネル(19)
18 ▶(再生)ボタン(28)
19 MOVIE（動画）ボタン(26)
20 コントロールホイール(17)
21 ソフトキー（18)

1) 動画撮影時はふさがないでください。
2) スマートアクセサリーターミナル対応のアクセサリーも使用できます。
3) 直接手で触れないでください。

次のページにつづく↓

1 バッテリー/メモリーカードカバー

2 三脚ネジ穴

- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚を使ってください。
  ネジの長さが5.5 mm以上の三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

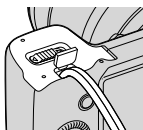
3 ⊖イメージセンサー位置表示（65）

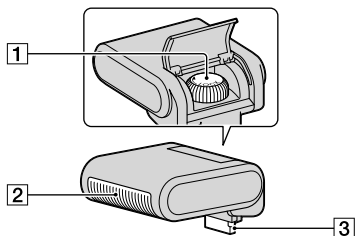
4 アクセスランプ

5 バッテリー挿入口

6 メモリーカード挿入口

7 接続プレートカバー

ACアダプター AC-PW20（別売）を使うときに使います。バッテリー挿入口に接続プレートを入れ、図のように接続プレートカバーからコードを出します。

- カバーを閉じるときは、コードを挟まないように気をつけてください。

フラッシュ HVL-F7S

1 固定ネジ

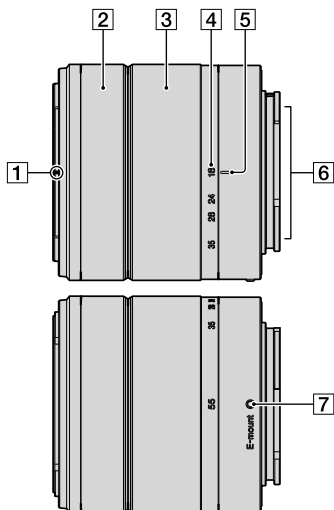
2 発光部*

3 端子部*

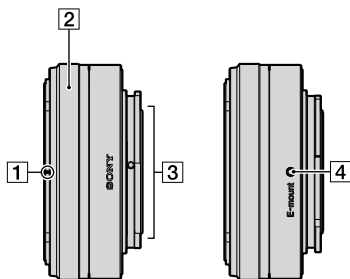
* 直接手で触れないでください。
汚れた場合は柔らかいきれいな布で拭き取ってください。

次のページにつづく↓

レンズ

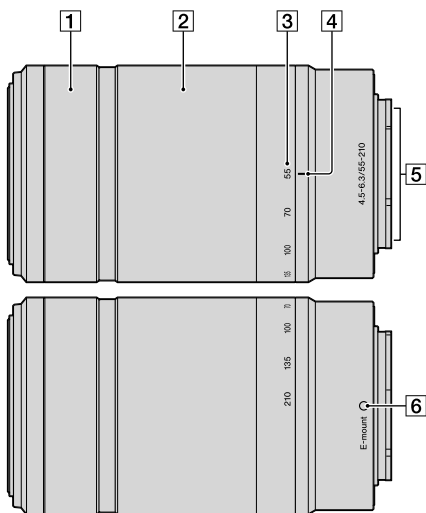
E18-55mm F3.5-5.6 OSS（NEX-5NK/5ND/5NYに付属）

1 フード指標
2 フォーカスリング
3 ズームリング
4 焦点距離目盛
5 焦点距離指標
6 レンズ信号接点*
7 マウント標点

* 直接手で触れないでください。

E16mm F2.8（NEX-5NDに付属）

1 コンバーター取り付け指標*
2 フォーカスリング
3 レンズ信号接点**
4 マウント標点

* コンバーターは別売です。
** 直接手で触れないでください。

次のページにつづく↓

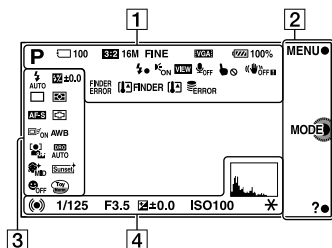
E55-210mm F4.5-6.3 OSS（NEX-5NYに付属）

1 フォーカスリング
2 ズームリング
3 焦点距離目盛
4 焦点距離指標
5 レンズ信号接点*
6 マウント標点

* 直接手で触れないでください。

目次
撮りたい写真から探す
メニューから探す
索引

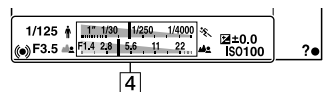
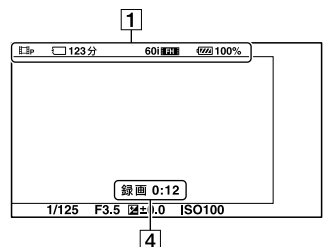
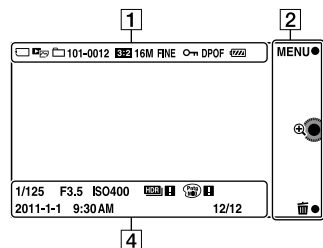
画面表示一覧

画面には、カメラの状態を表すアイコンが出ます。コントロールホイールのDISP（画面表示切換）で、液晶モニターの表示を切り換えられます（38ページ）。

撮影スタンバイ時

グラフィック表示

動画撮影時

再生時

1

表示	意味
P A S M AUTO P A S M	撮影モード
	シーンセレクション
	おまかせシーン認識マーク
3:2 16:9	静止画の縦横比
16M 14M 8.4M 7.1M 4M 3.4M 3D WIDE STD 16:9	静止画の画像サイズ
RAW RAW+J FINE STD	静止画の画質
100	静止画撮影可能枚数
60i FX 60i FH 60p PS 24p FX 24p FH 1080 VGA	動画の記録設定
OFF	メモリーカード/アップロード
123分	動画の録画可能時間
100%	バッテリー容量
	フラッシュ充電表示
ON	AF補助光
VIEW	ライブビュー表示
OFF	動画音声記録

次のページにつづく↓

表示	意味
	タッチ操作切
OFF OFF ON ON	手ブレ補正/手ブレ警告
FINDER ERROR	電子ビューファインダー（別売）接続エラー警告
FINDER FINDER	電子ビューファインダー（別売）の温度上昇警告
	温度上昇警告
FULL ERROR	管理ファイルフル警告/管理ファイルエラー警告
MP4 AVCHD	ビューモード
101-0012	再生フォルダー -ファイル番号
	プロテクト
DPOF	プリント予約

2

表示	意味
MENU● MODE ?●	ソフトキー

3

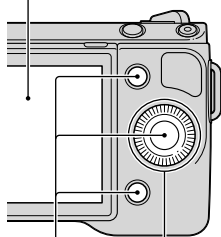
表示	意味
AUTO SLOW REAR	フラッシュモード/赤目軽減
10 2 C3 C5 BRK C 0.3EV BRK C 0.7EV	ドライブモード
DMF AF-S AF-C MF	フォーカスモード
±0.0	調光補正
	測光モード
	フォーカスエリアモード
ON OFF	被写体追尾
OFF ON	顔検出
HI MID LO OFF	美肌効果

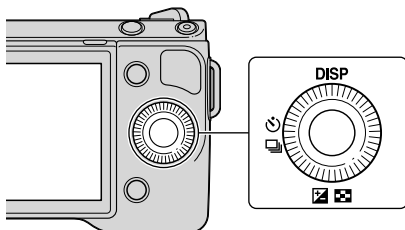
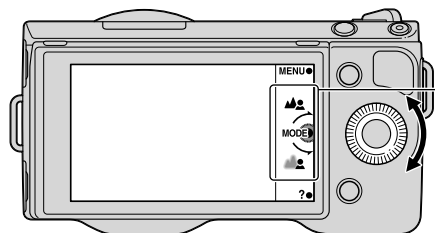
表示	意味
AWB -1 0 +1 +2 WB 7500K A7 G7	ホワイトバランス
D-R OFF DRO AUTO HDR AUTO	DRO/オートHDR
Std. Vivid Port. Land. Sunset B/W	クリエイティブスタイル
Pos Pop Rtro Part R Sfth key HC BW Toy Norm Soft Mid Pntg Mid Rich BW Mini AUTO OFF	ピクチャーエフェクト
	スマイル検出感度インジケーター

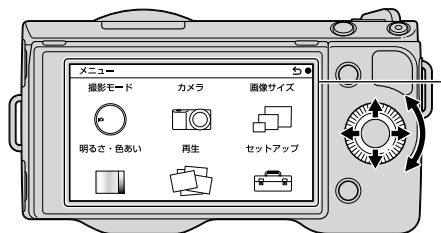
4

表示	意味
●	フォーカス状況
1/125	シャッタースピード
F3.5	絞り値
M.M. ±0.0	メータードマニュアル
±0.0 –3··2··1··0··1··2··3+	露出補正
ISO400	ISO感度
	AEロック
1" 1/30 1/250 1/4000	シャッタースピードインジケーター
F1.4 2.8 5.6 11 22	絞りインジケーター
録画 0:12	動画の記録時間（分：秒）
2011-1-1 9:30AM	画像の記録日時
12/12	画像番号/ビューモード内画像枚数
HDR !	オートHDR処理結果
Pntg MID ! Rich BW !	ピクチャーエフェクト処理結果
	ヒストグラム

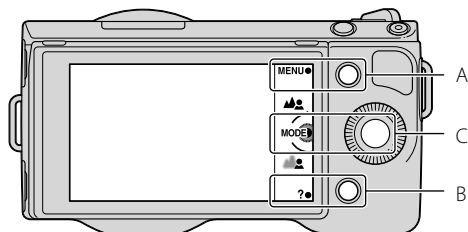
本機の操作方法

コントロールホイール、ソフトキー、タッチパネルを使って、多くの機能を使いこなすことができます。

コントロールホイール

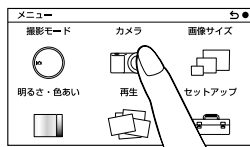
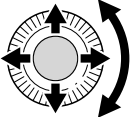
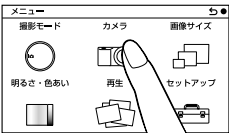
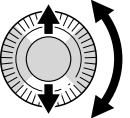
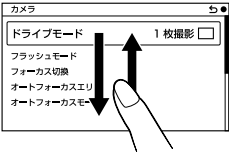
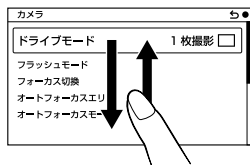
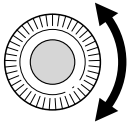
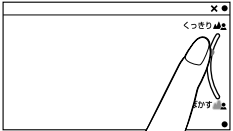
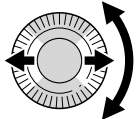
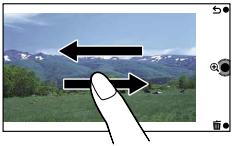
コントロールホイールには、撮影時にはDISP（画面表示切換）と（露出補正）、/（ドライブモード）の機能が、再生時にはDISP（画面表示切換）と（一覧表示）の機能が割り当てられています。
コントロールホイールの右キーには機能を割り当てることができます（129ページ）。

また、画面表示に従ってコントロールホイールを回したり、上下左右を押したりすると、項目を選ぶことができます。選んだ項目は、中央を押すと決定されます。

曲線矢印は、コントロールホイールを回すことを示しています。

次のページにつづく ↓

画面上に選択項目が出ている場合は、コントロールホイールを回したり、上下左右を押したりして項目を移動できます。中央を押して決定します。

ソフトキー

ソフトキーは目的によって役割が変わります。
何の機能が割り当てられているかは、それぞれ画面に表示されます。
画面右上に表示される機能を使うときはAのボタンを、画面右下に表示される機能を使うときはBのボタンを押します。中央の機能を使うときは、コントロールホイールの中央を押します（Cボタン）。
BとCのボタンには機能を割り当てることができます（129ページ）。
本書では、画面に表示されているアイコンまたは機能名称でこのソフトキーを表現しています。

この場合、AはMENU（メニュー）ボタンになり、Bは？（撮影アドバイス）ボタンになります。CはMODE（撮影モード）ボタンになります。

タッチパネル

画面をタッチしたり、なぞったりすることで直感的に操作することができます。項目を選ぶときは、画面に表示されている項目をタッチします。また隠れている項目を表示（スクロール）させるときは、画面をなぞります。

項目をタッチして決定します。

画面をなぞるとスクロールします。
画面上に表示されていなかった項目が
現れます。

操作方法

項目の選択や設定をするときに、コントロールホイールを使う方法と、タッチパネル画面を直接タッチしたり、なぞったりする方法の2通りの操作方法があります。

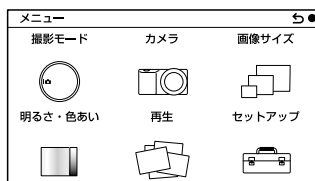
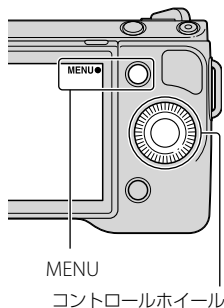
操作	方法	
	コントロールホイール	タッチパネル
項目を選ぶ	回す、または上下左右を押して希望の項目を選び、中央を押して決定する。	希望の項目をタッチして決定する。
隠れている項目を表示する	項目が出てくるまで回す、または上下を押し続ける。	項目が出てくるまで、項目を上下になぞる。

操作	方法	
	コントロールホイール	タッチパネル
数値やぼかし具合を調整する	回す。	インジケーターをなぞる。
再生画像を送る/戻す	回す、または左右を押す。	再生画像を左右になぞる。

ご注意

- ほとんどの画面では、タッチパネルで、またはコントロールホイールとソフトキーでのどちらでも操作ができます。一部の画面ではどちらかでしか操作できません。
- 以下のような操作を行わないでください。誤動作の原因となります。
  – 鉛筆やボールペン、爪先などとがったものでの操作
  – カメラを持つ手が画面にかかっている状態での操作
- 手袋をしていると反応しないことがあります。

メニューから探す

撮影、再生、操作方法などカメラ全体に関する設定を変更したり、いろいろな機能を実行したりできます。

1 MENUを選ぶ。
2 コントロールホイールの上下左右で項目を選び、中央を押す。
　または、画面上の項目をタッチする。
3 画面の指示に従って項目を選び、コントロールホイールの中央を押して決定する。
　または、画面の指示に従って画面上の項目をタッチする。

各メニュー項目をクリックすると、該当ページに移動します。

撮影モード

露出モードやパノラマ、シーンセレクションなど、カメラの撮影モードを変えます。

おまかせオート	カメラがシーンを自動判別して、オート撮影する。
シーンセレクション	撮りたい被写体や環境に適したモードで撮影する。
人物ブレ軽減	暗めの室内や望遠撮影時でもブレを抑えて撮影する。
スイングパノラマ	パノラマサイズで撮影する。
3Dスイングパノラマ	3D対応テレビで再生する3Dパノラマ画像を撮影する。
マニュアル露出	絞りとシャッタースピードを調節して撮影する。
シャッタースピード優先	シャッタースピードを調整し、動くものの表現を変えて撮影する。
絞り優先	ピントの合う範囲や、背景のぼかし具合を変えて撮影する。
プログラムオート	露出(シャッタースピードと絞り)以外はお好みの設定ができるオート撮影。

次のページにつづく↓

カメラ

連続撮影、セルフタイマー、フラッシュ発光などの撮影設定を行います。

ドライブモード	連写、セルフタイマー、ブラケットなどを設定する。
フラッシュモード	発光方式を選ぶ。
フォーカス切換	ピント合わせの方法を、自動か手動か選ぶ。
オートフォーカスエリア	ピント合わせの位置を選ぶ。
オートフォーカスモード	ピント合わせの方法を選ぶ。
被写体追尾	被写体を追尾してピントを合わせ続ける機能を設定する。
プレシジョンデジタルズーム	デジタルズームの設定をする。
顔検出	人の顔を自動でとらえ、ピントや露出を合わせるための設定をする。
個人顔登録	優先してピントを合わせる人物の登録や編集を行う。
スマイルシャッター	笑顔をとらえるたびに、自動的に撮影する。
美肌効果	顔検出時、被写体の肌をなめらかに撮影する。
撮影アドバイス一覧	すべての撮影アドバイスを見る。
背面モニター表示（DISP）	液晶モニターの撮影画面に表示する情報を切り換える。
ファインダー表示（DISP）	電子ビューファインダー（別売）の撮影画面に表示する情報を切り換える。
DISPボタン（背面モニター）	DISPボタンを押して液晶モニターに表示される情報の種別を設定する。

画像サイズ

画像サイズや横縦比などを設定します。

静止画	
画像サイズ	画像サイズを設定する。
横縦比	横縦の比率を選ぶ。
画質	圧縮率を選ぶ。
3Dパノラマ	
画像サイズ	3Dパノラマ撮影時の画像サイズを設定する。
パノラマ撮影方向	3Dパノラマ撮影時、カメラを動かす方向を選ぶ。
パノラマ	
画像サイズ	パノラマ撮影時の画像サイズを設定する。
パノラマ撮影方向	パノラマ撮影時、カメラを動かす方向を選ぶ。
動画	
記録方式	AVCHD 60i/60pかMP4かを選ぶ。
記録設定	動画の画像サイズとフレームレート、画質を選ぶ。

次のページにつづく↓

明るさ・色あい

測光などの明るさに関する設定や、ホワイトバランスなど色合いに関する設定を行います。

露出補正	画像全体の明るさを補正する。
ISO感度	明るさに対する感度を設定する。
ホワイトバランス	光源に合わせて画像の色合いを調整する。
測光モード	明るさを測る方法を選ぶ。
調光補正	フラッシュ発光量を調整する。
DRO/オートHDR	明るさやコントラストを自動補正する。
ピクチャーエフェクト	好みの効果を選んで、独自の風合いで撮影する。
クリエイティブスタイル	画像の仕上がり具合を選ぶ。

再生

再生機能の設定をします。

削除	画像を削除する。
スライドショー	画像を自動再生する。
ビューモード	再生する画像のグルーピング方法を設定する。
一覧表示	一覧表示する枚数を選ぶ。
回転	画像を回転する。
プロテクト	画像の保護、解除の設定をする。
3D鑑賞	3D対応テレビと接続して3D画像を再生する。
⊕拡大	画像を拡大する。
音量設定	動画の音量を設定する。
プリント指定	プリントする画像の指定や設定を行う。
画面表示切換(DISP)	再生画面に表示する情報を切り換える。

目次
撮りたい写真から探す
メニューから探す
索引

次のページにつづく↓

セットアップ

撮影の詳細な設定や、カメラ全体に関する設定を行います。

撮影設定	
AF補助光	暗い場所でピントを合わせるための補助光を設定する。
赤目軽減発光	フラッシュ撮影時に目が赤く写るのを防ぐために、プリ発光する。
FINDER/LCD切換設定	電子ビューファインダー（別売）と液晶モニターの表示切り換え方法を設定する。
ライブビュー表示	画面表示に露出補正などの設定値を反映するかどうかを設定する。
オートレビュー	撮影直後、撮った画像を表示する時間を設定する。
グリッドライン	構図合わせのための補助線（グリッドライン）を表示する。
ピーキングレベル	ピントが合っている部分の輪郭を指定した色で表示する。
ピーキング色	輪郭を強調するピーキング表示の色を設定する。
MFアシスト	手動ピント合わせ時に画像を拡大表示する。
MFアシスト時間	[MFアシスト]機能で拡大表示する時間を設定する。
色空間	再現できる色の範囲を変更する。
手ブレ補正	手ブレ補正の設定をする。
レンズなし時のレリーズ	レンズが装着されていない状態でシャッターが切れるかどうか設定する。
アイスタートAF	電子ビューファインダー（別売）をのぞくと同時にオートフォーカスするかどうかを設定する。
電子先幕シャッター	電子先幕シャッター機能を使用するかどうかを設定する。
長秒時ノイズリダクション	長時間露光時のノイズ軽減処理を設定する。
高感度ノイズリダクション	高感度撮影時のノイズ軽減処理を設定する。
レンズ補正（周辺光量）	画面周辺が暗くなるのを補正する。
レンズ補正（倍率色収差）	画面周辺部の色のずれを軽減する。
レンズ補正（歪曲収差）	画面の歪みを補正する。
動画音声記録	動画撮影時の音声を設定する。
風音低減	動画撮影時の風音を低減する。
AF微調整	マウントアダプター LA-EA2（別売）装着時、オートフォーカスでのピント位置を微調整する。
本体設定	
メニュー呼び出し先	メニューの呼び出し先を変更する。
カスタムキー設定	ソフトキーやコントロールホイールの右キーに機能を設定する。
タッチ操作	タッチパネルで操作するかどうかを設定する。
操作音	操作時の音を設定する。
日時設定	日時を設定する。
エリア設定	本機を使うエリアを選ぶ。
ヘルプガイド表示	ヘルプガイドを表示/非表示する。

次のページにつづく↓

パワーセーブ	省電力モードになる時間を設定する。
モニター明るさ	液晶モニターの明るさを調節する。
ファインダー明るさ	電子ビューファインダー（別売）の明るさを調節する。
画面色	液晶モニターの色を選ぶ。
ワイド画像	ワイド画像の表示方法を設定する。
縦記録画像の再生	縦位置で撮影した画像の再生方法を選ぶ。
HDMI解像度	HDMI対応テレビ接続時の解像度を設定する。
HDMI機器制御	ブラビアリンク対応テレビから本機を操作するための設定をする。
USB接続	USB接続の方法を設定する。
クリーニングモード	イメージセンサーをクリーニングする。
バージョン表示	本機およびレンズ/マウントアダプターのバージョンを表示する。
デモモード	動画再生のデモンストレーションを設定する。
設定値リセット	お買い上げ時の設定に戻す。
メモリーカードツール	
フォーマット	メモリーカードを初期化する。
ファイル番号	ファイル番号の付けかたを設定する。
フォルダー形式	フォルダー名の付けかたを設定する。
撮影フォルダー選択	画像を保存するフォルダーを選ぶ。
フォルダー新規作成	新しいフォルダーを作成する。
管理ファイル修復	画像を管理するファイルに異常が発生したときに修復する。
メモリーカード残量表示	動画の撮影可能時間および静止画の撮影可能枚数を表示する。
Eye-Fiセットアップ*	
アップロード設定	Eye-Fiカードを利用した本機のアップロード機能を設定する。

* Eye-Fiカード（別売）挿入時のみ表示されます。

撮影する

ここでは、お買い上げ時の設定のまま撮影する方法を紹介します。
本機が撮影状況を自動的に判断して最適な設定にします。

1 **液晶モニターを見やすい角度に調節して、本機を構える。**
本機が自動的に撮影状況を判断して撮影する「おまかせシーン認識」機能が働く。

2 **静止画の場合は、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、深く押し込んで撮影する。**
動画の場合は、MOVIE（動画）ボタンを押して撮影を始める。
もう一度MOVIEボタンを押すと、撮影は終わる。

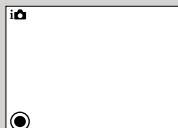
ご注意

- 動画の1回の連続撮影可能時間は最長約29分です。また、MP4時は最大2GBです。環境温度や本機の使用状況により撮影可能時間が短くなる場合があります。

おまかせシーン認識について

シーン認識マークとガイド

おまかせシーン認識とは、本機が自動的に撮影状況を認識して、撮影する機能です。

- (夜景)、(夜景＆人物)、(三脚夜景)、(逆光)、(逆光＆人物)、(風景)、(マクロ)、(人物)、(スポットライト)、(低照度)、(赤ちゃん)を認識し、認識した場合は画面に各マークとガイドが表示されます。

目次
撮りたい写真から探す
メニューから探す
索引

次のページにつづく↓

静止画のピントがうまく合わないときは

フォーカス表示

自動でピントを合わせられない場合は、フォーカス表示が点滅します。構図やフォーカス設定などを変えてください。

フォーカス表示	状況
●点灯	ピントが合って固定されている。
(●)点灯	ピントが合っている。被写体の動きに合わせてピント位置が変わる。
( )点灯	ピント合わせの途中。
●点滅	ピントが合っていない。

- 以下のときは、ピントが合いにくい場合があります。
  - 被写体が遠くて暗い
  - 被写体と背景のコントラストが弱い
  - ガラス越しの被写体
  - 高速で移動する被写体
  - 鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
  - 点滅する被写体
  - 逆光になっている被写体

画面をタッチしてピントを合わせる

画面上のピントを合わせたい場所をタッチすると枠が表示され、シャッターを半押ししたときに枠内にピントが合います。終了するときは□×ボタンをタッチします。

[被写体追尾]が[入]のときは、被写体が動いてもピントを合わせ続けます（69ページ）。

再生する

撮影した画像を再生します。

1 ▶（再生）ボタンを押す。

2 コントロールホイールで画像を選ぶ。
または、画面を左右になぞって画像を選ぶ。

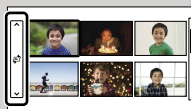
3 パノラマ画像または動画の場合は、コントロールホイールの中央を押して再生する。
または画面上の▶をタッチして再生する。

動画再生中にできること	コントロールホイール操作	タッチパネル操作
一時停止/再生	中央を押す	❚❚、▶をタッチする
早送り	右を押す、または右に回す	▶▶をタッチする
早戻し	左を押す、または左に回す	◀◀をタッチする
正方向スロー再生	一時停止中に右に回す	一時停止中に❚▶をタッチする
逆方向スロー再生*	一時停止中に左に回す	一時停止中に◀❚をタッチする
音量	下→上/下を押す	–

* 動画はコマ送りになります。

ご注意

- 他機で撮影されたパノラマ画像は、正しく再生されない場合があります。

希望のフォルダーを表示する

一覧表示にして（49ページ）、画面左側のバーを選び、コントロールホイールの上下を押して、希望のフォルダーを選びます。バーをタッチして選ぶこともできます。バーの中央を押すと、ビューモードを切り換えることができます。

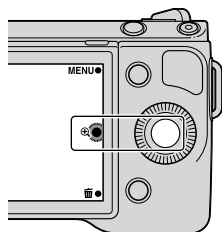
次のページにつづく↓

拡大再生

静止画再生中に、画像の一部を拡大できます。ピント具合を確認したいときなどに使います。メニューからも拡大再生できます（102ページ）。

1 **拡大したい画像を表示して、⊕（拡大）を選ぶ。**

2 **コントロールホイールを回して、拡大倍率を調整する。**
または、画面上の⊕または⊖をタッチする。

3 **コントロールホイールの上下左右、または画像をなぞって、表示する場所を移動する。**
画像をタッチすると、タッチした位置を中心に拡大する。

4 **拡大をやめるには、✕を選ぶ。**

ご注意

- 動画は拡大再生ができません。
- パノラマ再生中は、一時停止させた後に⊕（拡大）で拡大再生をします。

拡大倍率範囲

拡大倍率は、画像サイズによって異なります。

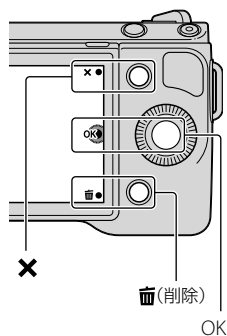
画像サイズ	拡大倍率範囲
L	約1.0 ～ 13.6倍
M	約1.0 ～ 9.9倍
S	約1.0 ～ 6.8倍

削除する

再生中の画像を削除します。

1 **削除したい画像を表示して🗑(削除)を選ぶ。**

2 **OKを選ぶ。**

削除をやめるには✕を選ぶ。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。
- 一度削除された画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

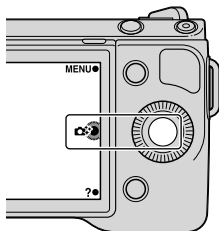
複数の画像を削除するときは

MENU→［再生］→［削除］から、画像を選んで削除したり、まとめて削除したりすることができます。

マイフォトスタイルで撮影する

マイフォトスタイルとは、簡単な操作で設定が変更できるため、気軽にクリエイティブな画像を撮れるモードです。

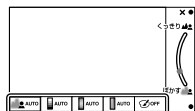
1 MENU→［撮影モード］→［おまかせオート］を選ぶ。

2 (マイフォトスタイル)を選ぶ。

3 画面下部に表示されている項目の中から設定を変更する項目を選ぶ。

各項目は掛け合わせて設定できる。

4 希望の設定を選ぶ。

5 静止画の場合は、シャッターボタンを押して撮影する。
動画の場合は、MOVIE（動画）ボタンを押して撮影を始める。

［おまかせオート］に戻るときは×を選ぶ。

背景ぼかし（32ページ）	背景のぼかし具合を調整する。
明るさ（33ページ）	明るさを調整する。
色あい（34ページ）	色合いを調整する。
鮮やかさ（35ページ）	鮮やかさを調整する。
ピクチャーエフェクト（36ページ）	好みの効果を選んで、独自の風合いで撮影する。

ご注意

- マイフォトスタイルは、Eマウントレンズでのみ使用できます。
- スマイルシャッターは使えません。
- マイフォトスタイルを選ぶと、設定が無効になるメニュー項目があります。
- ［おまかせオート］に戻ったり、電源を切ると、各設定は初期設定に戻ります。
- マイフォトスタイルで動画を撮影する場合、記録中に変更できるのは［背景ぼかし］のみです。

目次
撮りたい写真から探す
メニューから探す
索引

背景ぼかし

マイフォトスタイルで、液晶モニターでぼかし具合を確認しながら簡単に背景をぼかした写真を撮影できます。
設定したぼかし具合で動画も撮影できます。

1 MENU→［撮影モード］→［おまかせオート］を選ぶ。

2 （マイフォトスタイル）を選ぶ。

3 ［背景ぼかし］を選ぶ。

4 希望のぼかし具合を選ぶ。

：くっきりする。

：ぼける。

元に戻すには、AUTOを選ぶ。

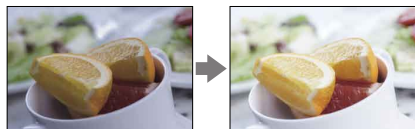
ご注意

- 表現できる「ぼかし」の範囲は、レンズによって異なります。
- 被写体との距離や使用するレンズによっては、効果が得られにくい場合があります。

きれいに背景をぼかすには

- 被写体に近づいて撮影する。
- 被写体と、ぼかしたい背景との距離を離す。

明るさ

マイフォトスタイルで、簡単に明るさを調整できます。

1 MENU→［撮影モード］→［おまかせオート］を選ぶ。

2 （マイフォトスタイル）を選ぶ。

3 ［明るさ］を選ぶ。

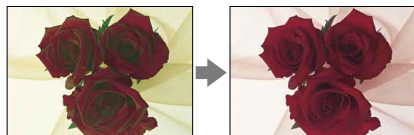
4 希望の明るさを選ぶ。

□：明るくなる。

■：暗くなる。

元に戻すには、AUTOを選ぶ。

色あい

マイフォトスタイルで、簡単に色合いを調整できます。

1 MENU→［撮影モード］→［おまかせオート］を選ぶ。

2 (マイフォトスタイル)を選ぶ。

3 ［色あい］を選ぶ。

4 希望の色合いを選ぶ。

　□：暖かな色合いになる。

　■：クールな色合いになる。

　元に戻すには、AUTOを選ぶ。

鮮やかさ

マイフォトスタイルで、簡単に鮮やかさを調整できます。

1 MENU→［撮影モード］→［おまかせオート］を選ぶ。

2 (マイフォトスタイル)を選ぶ。

3 ［鮮やかさ］を選ぶ。

4 希望の鮮やかさを選ぶ。

：鮮やかになる。

：淡くなる。

元に戻すには、AUTOを選ぶ。

ピクチャーエフェクト

マイフォトスタイルで、簡単にピクチャーエフェクトを設定できます。
好みの効果を選んで、より印象的でアーティスティックな表現の画像を撮影できます。

1 MENU→［撮影モード］→［おまかせオート］を選ぶ。

2 （マイフォトスタイル）を選ぶ。

3 ［ピクチャーエフェクト］を選ぶ。

4 希望の効果を選ぶ。

元に戻すには、AUTOを選ぶ。

OFF（切）	ピクチャーエフェクトを使わない。
（トイカメラ）	周辺が暗く、シャープ感を抑えた柔らかな仕上がりになる。
（ポップカラー）	色合いを強調してポップで生き生きとした仕上がりになる。
（ポスタリゼーション：カラー）	原色のみで再現されるメリハリのきいた抽象的な仕上がりになる。
（ポスタリゼーション：白黒）	白黒のみで再現されるメリハリのきいた抽象的な仕上がりになる。

次のページにつづく↓

Rtro（レトロフォト）	古びた写真のようにセピア色でコントラストが落ちた仕上がりになる。	
Sfth key（ソフトハイキー）	明るく、透明感や軽さ、優しさ、柔らかさを持ったような仕上がりになる。	
Part R（パートカラー：レッド）	赤色のみをカラーで残し、他の部分はモノクロに仕上がる。	
Part G（パートカラー：グリーン）	緑色のみをカラーで残し、他の部分はモノクロに仕上がる。	
Part B（パートカラー：ブルー）	青色のみをカラーで残し、他の部分はモノクロに仕上がる。	
Part Y（パートカラー：イエロー）	黄色のみをカラーで残し、他の部分はモノクロに仕上がる。	
HC BW（ハイコントラストモノクロ）	明暗を強調することで緊張感のあるモノクロに仕上がる。	

ご注意

- ［パートカラー］のとき、被写体によっては設定した色が残らないことがあります。
- マイフォトスタイルでは選べる効果が限定されています。また、Optionで効果の微調整を行うことができません。MENU→［明るさ・色あい］→［ピクチャーエフェクト］でこれらを設定することができます（93ページ）。

DISP(画面表示切換)

コントロールホイール使用時：

1 コントロールホイールのDISP（画面表示切換)を繰り返し押す。

メニュー使用時：

1 撮影時は、MENU→［カメラ］→［背面モニター表示(DISP)］/［ファインダー表示(DISP)］を選ぶ。
再生時は、MENU→［再生］→［画面表示切換(DISP)］を選ぶ。

2 希望のモードを選ぶ。

ご注意

- ［ファインダー表示(DISP)］は電子ビューファインダー（別売)を取り付けているときのみ設定できます。

撮影時

背面モニター表示(DISP)			
	グラフィック表示	基本的な撮影情報を表示する。 撮影モードが［スイングパノラマ］［3Dスイングパノラマ］以外のときは、シャッタースピードと絞りをグラフィカルに表示する。	P 1" 1/30 1/250 1/4000 F1.4 2.8 5.6 11 22
✓	全情報表示	撮影情報を表示する。	P ±0.0 AWB 1/125 F3.5 ±0.0
	文字サイズ(大)表示	大きな文字で主要な項目のみを表示する。	P 100 FINE 100% 1/125 F3.5 ±0.0 ISO100
	情報表示なし	撮影情報を表示しない。	1/125 F3.5 ±0.0

目次
撮りたい写真から探す
メニューから探す
索引

目次

撮りたい写真から探す

メニューから探す

索引

	ヒストグラム	画像の明暗をグラフ(ヒストグラム)で表示する。	
	ファインダー撮影用	撮影画面に情報のみを表示する。 ファインダー（別売)を使用して撮影するときに使う。	
ファインダー表示(DISP)			
✓	基本情報表示	撮影画面に基本情報を表示する。	
	ヒストグラム	画像の明暗をグラフ(ヒストグラム)で表示する。	

選択できる画面表示を設定する

撮影時に液晶モニターの画面表示で選択できるモードを[DISPボタン(背面モニター)]で設定することができます(77ページ)。

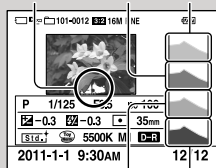
再生時

✓	**情報表示あり**	撮影情報を表示する。	
	ヒストグラム	撮影情報に加え、画像の明暗をグラフ（ヒストグラム）で表示する。	
	情報表示なし	撮影情報を表示しない。	

ご注意

- 以下のときは、ヒストグラム表示できません。
  – 動画再生
  – パノラマ再生
  – スライドショー

ヒストグラムとは？

ヒストグラムは明るさを示すグラフです。表示が右寄りなら明るめの画像、左寄りなら暗めの画像です。

- 再生時、画面に白とび、黒つぶれの箇所がある場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します（白とび黒つぶれ警告）。

目次
撮りたい写真から探す
メニューから探す
索引

露出補正

－3.0EVから＋3.0EVの範囲で、1/3EV単位で露出を調節できます。

1 コントロールホイールの （露出補正）→希望の数値を選ぶ。
または、MENU→［明るさ・色あい］→［露出補正］→希望の数値を選ぶ。

ご注意

- 以下のときは、[露出補正]は設定できません。
  - [おまかせオート]
  - [シーンセレクション]
  - [マニュアル露出]
- 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュ撮影時は、充分な効果が得られないことがあります。
- 露出は–3.0EVから+3.0EVの範囲で調節できますが、撮影時に画面で確認できる数値は–2.0EVから+2.0EVまでです。その範囲外に設定した場合は、撮影時の画面では明るさは変わりませんが、記録した画像には反映されます。

光の量を調整して好みの画像を撮る

露出オーバー＝光が多すぎる。
画面が白くなる。

露出補正を－側にする。

露出が適正

露出補正を＋側にする。

露出アンダー＝光が少なすぎる。
画面が暗くなる。

- 明るく撮影したいときは、＋側にします。
  料理を撮るときは周囲の色を白でまとめて普段よりも明るめに撮ると、料理がおいしそうに見えます。
- 青空を撮るときは、－側にすると濃く鮮やかな色になります。

ドライブモード

連写やセルフタイマーなど、いろいろな撮影方法を設定できます。

1 コントロールホイールの /（ドライブモード）→希望のモードを選ぶ。または、MENU→［カメラ］→［ドライブモード］→希望のモードを選ぶ。

✓	（1枚撮影）	1枚撮影する。通常の撮影方法。
	（連続撮影）	シャッターボタンを押している間、連続撮影する（43ページ）。
	（速度優先連続撮影）	シャッターボタンを押している間、高速で連続撮影する（44ページ）。ピントと明るさは1枚目で固定される。
	（セルフタイマー）	10秒後または2秒後にセルフタイマーで撮影する（45ページ）。
	C（セルフタイマー（連続））	10秒後にセルフタイマーで連続撮影する（46ページ）。
	BRK C（連続ブラケット）	シャッターボタンを押し続けることで、明るさを段階的にずらして3枚の画像を撮影する（47ページ）。
	（リモコン）	ワイヤレスリモートコマンダー RMT-DSLR1（別売）を使って撮影する（48ページ）。

ご注意

- 以下のときは、設定を変更できません。
  - ［シーンセレクション］の［手持ち夜景］
  - ［人物ブレ軽減］
  - ［スイングパノラマ］
  - ［3Dスイングパノラマ］
  - ［オートHDR］

連続撮影

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。

1 **コントロールホイールの ◌/◌（ドライブモード）→［連続撮影］を選ぶ。または、MENU→［カメラ］→［ドライブモード］→［連続撮影］を選ぶ。**

ご注意

- 以下のときは、［連続撮影］機能は使えません。
  - ［スポーツ］以外の［シーンセレクション］
  - ［人物ブレ軽減］
  - ［スイングパノラマ］
  - ［3Dスイングパノラマ］
  - ［スマイルシャッター］
  - ［オートHDR］

速度優先連続撮影

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。
[連続撮影]より高速で連写します。

1 **コントロールホイールの ◌/ ◌(ドライブモード)→[速度優先連続撮影]を選ぶ。**
または、MENU→[カメラ]→[ドライブモード]→[速度優先連続撮影]を選ぶ。

ご注意

- 以下のときは、[速度優先連続撮影]機能は使えません。
  - [スポーツ]以外の[シーンセレクション]
  - [人物ブレ軽減]
  - [スイングパノラマ]
  - [3Dスイングパノラマ]
  - [スマイルシャッター]
  - [オートHDR]
- ピントと明るさは1枚目で固定されます。

セルフタイマー

1 **コントロールホイールの (ドライブモード) → [セルフタイマー]を選ぶ。**
または、MENU→ [カメラ] → [ドライブモード] → [セルフタイマー]を選ぶ。

2 **Option→希望のモードを選ぶ。**
解除するには、 (ドライブモード)を押して[1枚撮影]を選ぶ。

✓	**10(セルフタイマー:10秒)**	セルフタイマーを10秒後に設定する。 シャッターボタンを押すと、セルフタイマーランプが点滅して電子音が鳴り、撮影が開始される。 解除するには、コントロールホイールの (ドライブモード)を押す。
	2(セルフタイマー:2秒)	セルフタイマーを2秒後に設定する。シャッターボタンを押したときのブレが軽減できる。

ご注意

- 以下のときは、[セルフタイマー]機能は使えません。
  - [シーンセレクション]の[手持ち夜景]
  - [人物ブレ軽減]
  - [スイングパノラマ]
  - [3Dスイングパノラマ]
  - [スマイルシャッター]
  - [オートHDR]

セルフタイマー(連続)

10秒後に指定した枚数だけ連続撮影します。設定した枚数の中からお気に入りの1枚を選べます。

1 コントロールホイールの ⏲/ ▭(ドライブモード)→[セルフタイマー(連続)]を選ぶ。
または、MENU→ [カメラ] → [ドライブモード] → [セルフタイマー(連続)]を選ぶ。

2 Option→希望のモードを選ぶ。
解除するには、⏲/ ▭(ドライブモード)を押して[1枚撮影]を選ぶ。

✓	⏲C3(セルフタイマー(連続):10秒後3枚)	10秒後に、設定した枚数だけ連写する。 シャッターボタンを押すと、セルフタイマーランプが点滅して電子音が鳴り、撮影が開始される。 解除するには、コントロールホイールの ⏲/ ▭(ドライブモード)を押す。
	⏲C5(セルフタイマー(連続):10秒後5枚)	

ご注意

- 以下のときは、[セルフタイマー(連続)]機能は使えません。
  - [シーンセレクション]の[手持ち夜景]
  - [人物ブレ軽減]
  - [スイングパノラマ]
  - [3Dスイングパノラマ]
  - [スマイルシャッター]
  - [オートHDR]

連続ブラケット

露出を自動的に標準→暗い→明るいの順でずらして撮影します。
撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続けて撮影します。
撮影した後に、イメージにあった明るさの画像を選ぶことができます。

1 コントロールホイールの ⏲/ ⧉（ドライブモード）→［連続ブラケット］を選ぶ。
または、MENU→［カメラ］→［ドライブモード］→［連続ブラケット］を選ぶ。

2 Option→希望のモードを選ぶ。
解除するには、⏲/ ⧉（ドライブモード）を押して［1枚撮影］を選ぶ。

✔	BRK C 0.3EV（連続ブラケット：0.3EV）	設定した段数で、ブラケット撮影する。
	BRK C 0.7EV（連続ブラケット：0.7EV）	

ご注意

- 以下のときは、［連続ブラケット］機能は使えません。
  – ［おまかせオート］
  – ［シーンセレクション］
  – ［人物ブレ軽減］
  – ［スイングパノラマ］
  – ［3Dスイングパノラマ］
  – ［スマイルシャッター］
  – ［オートHDR］
- オートレビューには最後の1枚が表示されます。
- ［マニュアル露出］のときは、シャッタースピードを変えて露出値をずらします。
- 露出値を補正しているときは、補正された露出値を基準に露出をずらします。

リモコン

ワイヤレスリモートコマンダー RMT-DSLR1（別売）のSHUTTERボタン、2SECボタン（2秒後にシャッターを切る）を使って撮影します。リモコンの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 コントロールホイールの ⏲/ ⧉（ドライブモード）→［リモコン］を選ぶ。または、MENU→［カメラ］→［ドライブモード］→［リモコン］を選ぶ。

2 ピントを合わせ、リモコン発光部を本機のリモコン受光部に向けて撮影する。

ご注意

- 以下のときは、［リモコン］機能は使えません。
  - 動画撮影
  - ［シーンセレクション］の［手持ち夜景］
  - ［人物ブレ軽減］
  - ［スイングパノラマ］
  - ［3Dスイングパノラマ］
  - ［オートHDR］
- レンズやフードがリモコン受光部をさえぎり、受光を妨げることがあります。受光部をさえぎらない位置から操作してください。

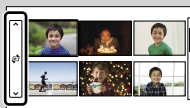
一覧表示

同時に複数の画像を表示します。

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする。

2 コントロールホイールの▦(一覧表示)を押す。
6枚表示になる。
MENU→［再生］→［一覧表示］で、12枚表示にすることもできる。

3 1枚再生に戻すには、再生したい画像を選び、コントロールホイールの中央を押す。
または、再生したい画像をタッチする。

希望のフォルダーを表示する

画面左側のバーを選び、コントロールホイールの上下を押して、希望のフォルダーを選びます。または、バーをタッチして選ぶこともできます。バーの中央を押すと、ビューモードを切り換えることができます。

おまかせオート

本機が自動的に撮影状況を判別して、オート撮影します。

1 **MENU→［撮影モード］→［おまかせオート］を選ぶ。**

2 **被写体にカメラを向ける。**

シーンを認識すると、シーン認識マークとガイドが表示される。

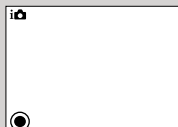
認識されるシーン：（夜景）、（三脚夜景）、（夜景&人物）、（逆光）、（逆光&人物）、（人物）、（風景）、（マクロ）、（スポットライト）、（低照度）、（赤ちゃん）

シーン認識マークとガイド

ご注意

- フラッシュは［自動発光］または［発光禁止］になります。
- シーンを認識しなくても撮影できます。
- ［顔検出］機能が［切］のとき、［人物］［逆光＆人物］［夜景＆人物］［赤ちゃん］は認識されません。

マイフォトスタイルについて

撮影モードが［おまかせオート］のとき、コントロールホイールの中央を押すと、マイフォトスタイルが使えます。簡単な操作で設定を変更して、クリエイティブな写真撮影を楽しめます（31ページ）。

次のページにつづく↓

静止画のピントがうまく合わないときは

フォーカス表示

自動でピントを合わせられない場合は、フォーカス表示が点滅します。構図やフォーカス設定などを変えてください。

フォーカス表示	状況
●点灯	ピントが合って固定されている。
(◉)点灯	ピントが合っている。被写体の動きに合わせてピント位置が変わる。
( )点灯	ピント合わせの途中。
●点滅	ピントが合っていない。

- 以下のときは、ピントが合いにくい場合があります。
  - 被写体が遠くて暗い
  - 被写体と背景のコントラストが弱い
  - ガラス越しの被写体
  - 高速で移動する被写体
  - 鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
  - 点滅する被写体
  - 逆光になっている被写体

シーンセレクション

撮影状況に合わせて用意された設定で撮影できます。

1 MENU→［撮影モード］→［シーンセレクション］→希望のモードを選ぶ。

（ポートレート）	背景をぼかして、人物を際立たせる。肌をやわらかに再現する。	
（風景）	風景を手前から奥までくっきりと鮮やかな色で撮る。	
（マクロ）	花や料理などに近づいて撮るときに適している。	
（スポーツ）	高速なシャッタースピードで動く物が止まったように撮れる。シャッターボタンを押し続けると連続撮影する。	
（夕景）	夕焼けや朝焼けなどの赤を美しく撮る。	
（夜景ポートレート）	夜景を背景に手前の人物を撮る。フラッシュを取り付けて使う。	

次のページにつづく↓

☽(夜景)	暗い雰囲気を損なわずに、夜景を撮る。	
☽✋(手持ち夜景)	三脚を使わずにノイズが少ない夜景を撮る。連写を行い、画像を合成して被写体ブレや手ブレ、ノイズを軽減して記録する。	

ご注意

- [夜景] [夜景ポートレート]のときは、シャッタースピードが遅くなり、画像がブレやすくなるため、三脚のご使用をおすすめします。
- [手持ち夜景]時は、シャッター音が6回鳴りますが、記録される画像は1枚です。
- [RAW] [RAW+JPEG]時に[手持ち夜景]にすると、画質は一時的に[ファイン]になります。
- [手持ち夜景]にしても、以下の場合はノイズを軽減する効果が弱くなります。
  – 動きの大きな被写体
  – 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
  – 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体
  – 波や滝など、常に模様が変化する被写体
- [手持ち夜景]時は、蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、ブロック状のノイズが発生することがあります。
- [マクロ]を選んでも、被写体に近づける距離は変わりません。ピントが合う最短距離はレンズの最短撮影距離をごらんください。

人物ブレ軽減

室内での人物撮影に適しています。フラッシュを使わずに被写体ブレを軽減した撮影ができます。

1 MENU→［撮影モード］→［人物ブレ軽減］を選ぶ。

2 シャッターボタンを押して撮影する。

連写した6枚の画像を合成して被写体ブレやノイズを軽減して記録する。

ご注意

- ［RAW］［RAW+JPEG］時に［人物ブレ軽減］にすると、画質は一時的に［ファイン］になります。
- シャッター音が6回鳴りますが、記録される画像は1枚です。
- 以下の場合は、ノイズを軽減する効果が弱くなります。
  – 動きの大きな被写体
  – 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
  – 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体
  – 波や滝など、常に模様が変化する被写体
- 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、ブロック状のノイズが発生することがあります。

スイングパノラマ

カメラを動かす間に複数の画像を撮影し、合成して1枚のパノラマ画像を作成します。

1 MENU→［撮影モード］→［スイングパノラマ］を選ぶ。

2 撮りたい被写体の端にカメラを合わせ、シャッターボタンを深く押し込む。

撮影されない部分

3 液晶画面上の矢印方向に、ガイドの終わりまで、カメラを動かす。

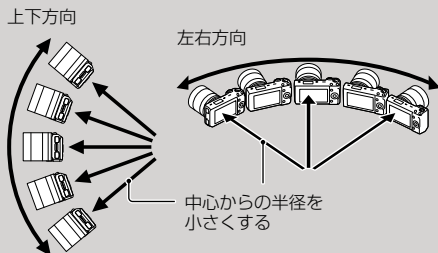
ガイド

ご注意

- 一定時間内にパノラマ撮影画角に満たなかった場合、足りない部分はグレーで記録されます。この場合はカメラを速く動かすと最後まで記録されます。
- ［画像サイズ］で［ワイド］を選んでいる場合、一定時間内にパノラマ撮影画角に満たない場合があります。その場合は、［画像サイズ］を［標準］にして撮影することをおすすめします。
- スイングパノラマ中は連続撮影になり、撮影終了までシャッター音が鳴り続けます。
- 複数の画像を合成するため、つなぎ目がなめらかに記録できない場合があります。
- 暗いシーンでは画像がブレる場合があります。
- 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、合成された画像の明るさや色合いが一定ではなくなります。
- パノラマ撮影される画角全体と、AE/AFロックしたときの画角とで、明るさや色合い、ピント位置などが極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このようなときは、AE/AFロックする場所を変えて撮影してください。
- 以下の場合はスイングパノラマ撮影に適していません。
  – 動いている被写体
  – 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
  – 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体
  – 波や滝など、常に模様が変化する被写体
  – 太陽や電灯など、周囲との明るさの差が大きい被写体
- 以下の場合はスイングパノラマ撮影が中断されることがあります。
  – カメラを動かす速度が速すぎる、または遅すぎる場合
  – ブレ過ぎた場合

次のページにつづく↓

スイングパノラマ撮影のポイント

一定の速度で小さな円を描くように動かし、液晶モニターの矢印方向と平行に動かしてください。動いている被写体よりも、止まっている被写体のほうがパノラマ撮影には適しています。

- ズームレンズの場合、W端にして撮影することをおすすめします。
- シャッターボタンを半押しして、ピントや露出、ホワイトバランスをロックしてから、シャッターボタンを深押しし、カメラを動かしてください。
- 複雑な形状や景色が画面の端にかたよっていると、合成がうまくいかないことがあります。その場合は、それらが画面の中央になるように構図を調整して撮影してください。
- 撮影方向は、MENU→［画像サイズ］→［パノラマ撮影方向］で、画像サイズはMENU→［画像サイズ］→［画像サイズ］で希望の設定を選べます。

パノラマ画像をスクロール再生する

パノラマ画像はコントロールホイールの中央を押すと、撮影開始から撮影終了まで自動的にスクロールさせて再生できます。もう一度中央を押すと、一時停止します。画面上の►/❚❚をタッチして再生/一時停止することもできます。

全体の中で現在表示されている部分

- パノラマ画像は付属のソフトウェア「PMB」でも再生できます。
- 他機で撮影されたパノラマ画像は、実際の撮影サイズと異なって表示されたり、正しくスクロール再生されない場合があります。

3Dスイングパノラマ

カメラを動かす間に複数の画像を撮影し、合成して1枚の3D画像を作成します。
本機で撮影した3D画像は、3D対応テレビでのみ3D画像を再生できます。
本機の液晶モニター、3Dに対応していないテレビでは、通常の静止画と同じように再生されます。

1 MENU→［撮影モード］→［3Dスイングパノラマ］を選ぶ。

2 撮りたい被写体の端にカメラを合わせ、シャッターボタンを深く押し込む。

撮影されない部分

3 液晶画面上の矢印方向に、ガイドの終わりまでカメラを動かす。

ガイド

ご注意

- 本機で撮影した3D画像を3D対応モニターでご覧になる場合、眼の疲労、疲れ、気分が悪くなるなどの不快な症状が出ることがあります。3D画像を視聴するときは、定期的に休憩をとることをおすすめします。必要な休憩の長さや頻度は個人差がありますので、ご自身で判断してください。不快な症状が出たときは、回復するまで3D画像の視聴をやめ、必要に応じて医師にご相談ください。本機に接続する機器やソフトウェアの取扱説明書もあわせてご覧ください。なお、お子様（特に6歳未満の幼児）の視覚は発達段階にあります。お子様が3D画像を鑑賞する前に、小児科や眼科などの医師にご相談ください。大人のかたは、お子様に上記を守らせるように監督してください。
- 一定時間内にパノラマ撮影画角に満たなかった場合、足りない部分はグレーで記録されます。カメラを動かすスピードの目安は、E18-55mmレンズの広角端（18mm）で、半周約6秒です。またズームを望遠にするほど、より遅く動かす必要があります。
- ［画像サイズ］で［ワイド］を選んでいる場合、一定時間内にパノラマ撮影画角に満たない場合があります。その場合は、［画像サイズ］を［標準］または［16:9］にして撮影することをおすすめします。
- ズームレンズの場合、望遠側で撮影するとグレーで記録される部分が出やすくなったり、撮影が中断されることがあります。ズームレンズは広角側で撮影することをおすすめします。
- 3Dスイングパノラマ中は連続撮影になり、撮影終了までシャッター音が鳴り続けます。
- 複数の画像を合成するため、つなぎ目がなめらかに記録できない場合があります。
- 暗いシーンでは画像がブレる場合があります。
- 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、合成された画像の明るさや色合いが一定ではなくなります。
- 3D撮影される画角全体と、シャッターボタンを半押ししてAE/AFロックしたときの画角とで、明るさや色合い、ピント位置などが極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このようなときは、AE/AFロックする場所を変えて撮影してください。

目次
撮りたい写真から探す
メニューから探す
索引

次のページにつづく↓

- 以下の場合は3Dスイングパノラマ撮影に適していません。
  – 動いている被写体
  – 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
  – 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体
  – 波や滝など、常に模様が変化する被写体
  – 太陽や電灯など、周囲との明るさの差が大きい被写体
- 以下の場合は3Dスイングパノラマ撮影が中断されることがあります。
  – カメラを動かす速度が速すぎる、または遅すぎる場合
  – ブレ過ぎた場合
- 3D画像はJPEGファイルとMPOファイルから構成されています。パソコンでどちらかのファイルを削除すると、再生できない場合があります。
- 撮影方向は左右方向のみです。

3D撮影のポイント

一定の速度で小さな円を描くように動かし、以下のポイントを参考にして液晶画面の矢印方向と平行に動かしてください。通常のスイングパノラマの半分程度のスピードで動かすことをおすすめします。

- 動きの無い被写体を撮る。
- 被写体と背景との距離を充分にとる。
- 屋外などの明るい場所で撮る。
- シャッターボタンを半押しして、ピントや露出、ホワイトバランスをロックしてからシャッターボタンを深押しし、カメラを動かしてください。

- ズームレンズの場合は、W端にして撮影することをおすすめします。
- 撮影方向は、MENU→［画像サイズ］→［パノラマ撮影方向］で、画像サイズはMENU→［画像サイズ］→［画像サイズ］で希望の設定を選べます。

3D画像のファイル名

3D画像は、JPEGファイルとMPOファイルから構成されます。
［3Dスイングパノラマ］で撮影した画像をパソコンに取り込むと、

- DSC0□□□.jpg
- DSC0□□□.mpo

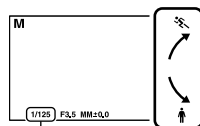
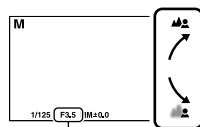
という2つのファイルが、同じフォルダー内に保存されます。
パソコンでJPEGファイルとMPOファイルのどちらかを削除すると、再生できない場合があります。

マニュアル露出

絞り値とシャッタースピードの両方を調節して、自分の好みの露出で撮影できます。

1 MENU→［撮影モード］→［マニュアル露出］を選ぶ。

2 コントロールホイールの下を押し、シャッタースピードか絞り値を選ぶ。

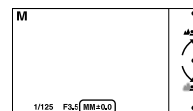
押すたびにシャッタースピードと絞り値が切り換わる。

シャッタースピード

絞り値（F値）

3 コントロールホイールを回してシャッタースピード/絞り値を選ぶ。
または、画面上の /、 / をタッチする。

「MM」（メータードマニュアル）で露出値を確認する。

＋側：明るく写る。

－側：暗めに写る。

0：本機が判断した適正露出。

露出値

4 ピントを合わせて撮影する。

動画撮影中もシャッタースピードや絞り値を変更できる。

ご注意

- フラッシュモードで［発光禁止］と［自動発光］は選べません。手でフラッシュ発光部を上げ下げして選んでください。
- マニュアル露出モードでは、 (手ブレ警告)は表示されません。
- マニュアル露出モードにすると、ISO感度の［ISO AUTO］設定は［100］に切り換わります。必要に応じて、ISO感度を変更してください。
- 液晶モニターの画像の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。
- Aマウントレンズ（別売）使用時は、［マニュアルフォーカス］時のみ動画撮影中にシャッタースピードや絞り値を変更できます。

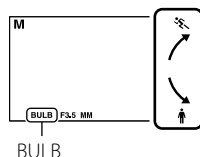
次のページにつづく↓

BULB撮影

長時間露光で、動きの軌跡を撮影できます。花火の光が尾を引くような写真を撮る場合に適しています。

1 MENU→［撮影モード］→［マニュアル露出］を選ぶ。

2 コントロールホイールの下を押し、シャッタースピードを選ぶ。

3 ［BULB］が出るまでコントロールホイールを左に回す。
または、［BULB］が出るまで人をタッチする。

4 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。

5 必要な時間、シャッターボタンを押し続けて撮影する。

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになる。

ご注意

- シャッタースピードが遅くなり画像がブレやすくなるため、三脚のご使用をおすすめします。
- 露光時間が長いほど、画面内のノイズは目立ちやすくなります。
- 撮影後はシャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理（長秒時ノイズリダクション）が行われます。処理中は撮影できません。
- ［スマイルシャッター］または［オートHDR］を使用しているときは、シャッタースピードを［BULB］に設定できません。
- シャッタースピードを［BULB］に設定しているときに、［スマイルシャッター］や［オートHDR］を使用すると、シャッタースピードは一時的に30秒になります。

リモコンを使うときは

リモコンのSHUTTERボタンを押すとバルブ撮影が始まり、もう一度押すと終了します。リモコンのSHUTTERボタンを押し続ける必要はありません。
リモコンを使うときは、コントロールホイールの（ドライブモード）→［リモコン］で本機の設定を変更する必要があります。

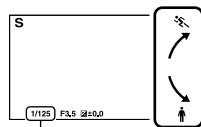
シャッタースピード優先

シャッタースピードを調整し、動きを止めて写したり、軌跡を写したりするなど動くものの表現を変えた撮影ができます。

1 MENU→［撮影モード］→［シャッタースピード優先］→希望の数値を選ぶ。

2 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、絞り値が自動的に設定される。

動画撮影中もシャッタースピードを変更できる。

シャッタースピード

ご注意

- フラッシュモードで［発光禁止］と［自動発光］は選べません。手でフラッシュ発光部を上げ下げして選んでください。
- シャッタースピード優先モードでは、(手ブレ警告)は表示されません。
- シャッタースピードを1秒または1秒より遅くして撮影（長時間露光）すると、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。処理中は撮影できません。
- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると絞り値が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- 液晶モニターの画像の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。
- Aマウントレンズ（別売）使用時は、［マニュアルフォーカス］時のみ動画撮影中にシャッタースピードを変更できます。

シャッタースピードについて

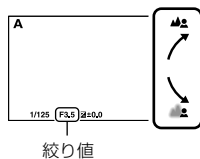
シャッタースピードを速くすると、走っている人や車、波しぶきなどの動きのあるものが止まったように見えます。

シャッタースピードを遅くすると、川の流れなどの軌跡が残り、より自然な流動感のある画像になります。

絞り優先

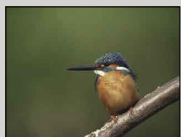
ピントの合う範囲や背景のぼかし具合を変えて撮影できます。

絞り値

1 MENU→［撮影モード］→［絞り優先］→希望の数値を選ぶ。
- 絞り値を小さくする：被写体の前後がぼける。
- 絞り値を大きくする：被写体の前後までくっきりとピントが合う。

2 ピントを合わせて撮影する。
適正露出になるように、シャッタースピードが自動的に設定される。
動画撮影中も絞り値を変更できる。

ご注意

- フラッシュモードで[発光禁止]と[自動発光]は選べません。手でフラッシュ発光部を上げ下げして選んでください。
- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると、シャッタースピードが点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- 液晶モニターの画像の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。
- Aマウントレンズ(別売)使用時は、[マニュアルフォーカス]時のみ動画撮影中に絞り値を変更できます。

絞りについて

絞り値を小さくする(絞りを開ける)と、ピントの合う範囲は前後に狭くなり、背景をぼかして、被写体をくっきりと表現できます。(被写界深度が浅くなる。)

絞り値を大きくする(絞りを絞る)と、ピントの合う範囲は前後に広がり、風景の広がりを表現できます。(被写界深度が深くなる。)

プログラムオート

露出(シャッタースピードと絞り)は本機が自動設定します。ISO感度、クリエイティブスタイル、Dレンジオプティマイザーなどの撮影機能を好みの設定に変更できます。

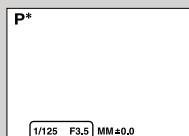
1 MENU→［撮影モード］→［プログラムオート］を選ぶ。

2 撮影機能を希望の設定にする。

3 ピントを合わせて撮影する。

ご注意

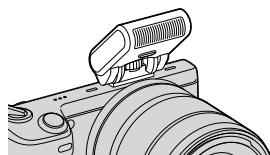
• フラッシュモードで［発光禁止］と［自動発光］は選べません。手でフラッシュ発光部を上げ下げして選んでください。

プログラムシフトで撮影する

フラッシュを発光しないときは、露出を固定したままシャッタースピードと絞り(F値)の組み合わせを変更できます。

コントロールホイールを回して、シャッタースピードと絞り(F値)の組み合わせを選んでください。

• 撮影モード表示が「P」から「P*」になります。

フラッシュモード

暗い場所での撮影では、フラッシュを使うと被写体を明るく写せ、手ブレを抑えるのにも役立ちます。また逆光などで被写体が暗くなる場合も、フラッシュを使って明るく写せます。

1 フラッシュを取り付け、発光部を持ち上げる。

2 MENU→［カメラ］→［フラッシュモード］→希望のモードを選ぶ。

（発光禁止）	フラッシュ発光部を上げていても発光しない。
AUTO（自動発光）	光量不足や逆光と判断したとき発光する。
（強制発光）	必ず発光する。
SLOW（スローシンクロ）	必ず発光する。スローシンクロでシャッタースピードを遅くして撮ると、被写体だけでなく、背景も明るく撮れる。
REAR（後幕シンクロ）	露光が終わる直前のタイミングで必ず発光する。走っている自動車や歩いている人など動いている被写体を撮ると、動きの軌跡が自然な感じに撮れる。

ご注意

- お買い上げ時の設定は撮影モードによって変わります。
- 撮影モードによっては選べないフラッシュモードがあります。
- 動画撮影時はフラッシュは使えません。

フラッシュ撮影のコツ

- レンズフードを取り付けていると、レンズフードでフラッシュ光がさえぎられ、画像に影が写ることがあります。レンズフードは取りはずして撮影してください。
- フラッシュ発光時は被写体から1m以上離れて撮影してください。
- 逆光のときは、フラッシュモードを[強制発光]にすると明るい日中でもフラッシュが発光し、顔が明るく写ります。

フォーカス切換

ピント合わせを自動で行うか、手動で行うかを設定します。

1 MENU→［カメラ］→［フォーカス切換］→希望のモードを選ぶ。

✓	AF（オートフォーカス）	ピント合わせを自動で行う。
	DMF（DMF）	オートフォーカスでピントを合わせた後に、マニュアルでピントを微調整する（ダイレクトマニュアルフォーカス）。
	MF（マニュアルフォーカス）	ピント合わせを手動で行う。レンズのフォーカスリングを左右に回して、被写体が最もはっきり見えるようにする。

ご注意

- ピントの位置が確認しやすいよう、[DMF]や[マニュアルフォーカス]モードでフォーカスリングを回すと、画像が自動的に拡大されます。MENU→［セットアップ］→［MFアシスト］→［切］で拡大しないようにできます。

マニュアルフォーカスを使いこなす

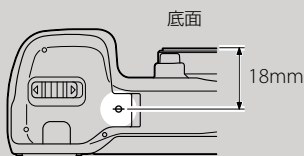
特定の場所を通ることがわかる被写体では、あらかじめ被写体が通る想定距離にピントを固定しておく「置きピン」が便利です。

撮影距離を正確に測るには

⊖マークがイメージセンサー *面の位置となります。本機から被写体までの距離を正確に測るには、この線の位置を参考にしてください。レンズ取り付け面からイメージセンサー面までは約18mmです。

* イメージセンサー：デジタルカメラでフィルムの役割を果たす部分

- お使いのレンズの最短撮影距離よりも近いものにはピントが合いません。撮りたいものに近づきすぎていないか、確認してください。

次のページにつづく↓

DMF（ダイレクトマニュアルフォーカス）

1 MENU→［カメラ］→［フォーカス切換］→［DMF］を選ぶ。

2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。

3 シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回してピントを調整する。

ご注意

• ［オートフォーカスモード］は、［シングル］に固定されます。

オートフォーカスエリア

ピント合わせの位置を変更します。ピントが合いにくいときなどに使います。

1 MENU→［カメラ］→［オートフォーカスエリア］→希望のモードを選ぶ。

✔	（マルチ）	25個のフォーカスエリアのうち、どこをピント合わせに使うかを自動的に決定する。静止画撮影で半押ししたときに、ピントが合ったエリアに緑色の枠が表示される。 • 顔検出が働いている場合は、顔を優先したフォーカスエリアになる。	AF測距枠
	（中央重点）	常に中央部のフォーカスエリアでピントを合わせる。	AF測距枠
	（フレキシブルスポット）	コントロールホイールの上下左右を使ってフォーカスエリアを移動させ、小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせる。 画面をタッチしてフォーカスエリアを決めることもできる。	AF測距枠

ご注意

- ［マルチ］以外の設定にすると、［顔検出］機能は使えません。
- 以下のときは、［マルチ］に固定されます。
  - ［おまかせオート］
  - ［シーンセレクション］
  - ［人物ブレ軽減］
  - ［スイングパノラマ］
  - ［3Dスイングパノラマ］
  - ［スマイルシャッター］
- 動画撮影時は［マルチ］でピント合わせを行います。ただし、Eマウントレンズ使用時は、撮影中にシャッターボタンを半押しすると、撮影前に設定したフォーカスエリアでピントを合わせます。
- AF補助光を使用するときは、［オートフォーカスエリア］の設定は無効になり、オートフォーカスエリア枠は点線で表示されます。中央付近を優先したAF動作になります。

オートフォーカスモード

被写体の動きに合ったピント合わせの方法を選びます。

1 MENU→［カメラ］→［オートフォーカスモード］→希望のモードを選ぶ。

✓	**AF-S（シングル）**	シャッターボタンを半押ししてピントが合うと、ピントはそこで固定される。動きのない被写体で使う。
	AF-C（コンティニュアス）	シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続ける。動いている被写体にピントを合わせるとき使う。

ご注意

- 以下のときは、[シングル]に固定されます。
  - [おまかせオート]
  - [セルフタイマー]
  - [リモコン]
  - [スポーツ]以外の[シーンセレクション]
  - [人物ブレ軽減]
  - [スイングパノラマ]
  - [3Dスイングパノラマ]
  - [スマイルシャッター]
- [シーンセレクション]が[スポーツ]のときは、[コンティニュアス]に固定されます。
- [コンティニュアス]では、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

被写体追尾

被写体が動いても、自動でピントを合わせ続けます。

ターゲット枠

1 MENU→［カメラ］→［被写体追尾］→［入］を選ぶ。
ターゲット枠が表示される。

2 ターゲット枠を追尾する被写体に合わせて、コントロールホイールの中央を押す。
追尾が開始される。
［被写体追尾］が［入］のとき、画面上の追尾したい被写体をタッチして追尾を開始することもできる。
追尾を解除する場合は、を選ぶ。

3 シャッターボタンを深押しして撮影する。

✓	入	ピント合わせをする被写体を追尾する。
	切	ピント合わせをする被写体を追尾しない。画面をタッチすると、タッチした位置でピント合わせを行う。

ご注意

- 以下のときは、［被写体追尾］機能がうまく働かないことがあります。
  - 動きが速すぎる被写体
  - 小さすぎる、または大きすぎる被写体
  - 被写体と背景が同系色の場合
  - 暗いシーン
  - 明るさが変わるシーン
- 以下のときは、［被写体追尾］機能は使えません。
  - ［スイングパノラマ］
  - ［3Dスイングパノラマ］
  - ［マニュアルフォーカス］
  - ［プレシジョンデジタルズーム］

撮りたい顔を追尾し続ける

追尾する被写体が画面から消えると被写体追尾は解除されます。ただし、顔を追尾している場合は、被写体が画面から消えても、追尾していた顔が再び画面に映った場合には追尾していた顔でピント合わせをします。

- 顔を追尾しているときにスマイルシャッターを実行すると、その顔だけがスマイル検出の対象になります。

プレシジョンデジタルズーム

静止画の画像中央部を拡大表示して撮影できます。

1 MENU→［カメラ］→［プレシジョンデジタルズーム］を選ぶ。

2 倍率を選ぶ。

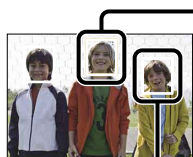
最大10倍まで拡大できる。

3 ズームをやめるには、✕を選ぶ。

ご注意

- 以下のときは、設定できません。
  - [シーンセレクション]の[手持ち夜景]
  - [人物ブレ軽減]
  - [スイングパノラマ]
  - [3Dスイングパノラマ]
  - [スマイルシャッター]
  - [画質]が[RAW]または[RAW＋JPEG]
  - [DRO/オートHDR]が[オートHDR]
- プレシジョンデジタルズーム中にMOVIEボタンを押すと、ズームが解除されて通常画角に戻り、動画記録が始まります。
- 画像処理をかけて拡大表示するため、拡大する前よりも画質は劣化します。
  ズームレンズの場合はズームリングで最大まで拡大し、さらに拡大したい場合の補助としてプレシジョンデジタルズームをご使用することをおすすめします。
- プレシジョンデジタルズーム使用時は、[オートフォーカスエリア]の設定は無効になり、オートフォーカスエリア枠は点線で表示されます。中央付近を優先したAF動作になります。

顔検出

カメラが人物の顔を判別し、人物に合わせて、ピントや露出、画像処理、フラッシュの調整をします。ピント合わせの優先対象の設定もできます。

顔検出枠(白色)
複数の顔を検出している場合、カメラが主要被写体を判断して優先的にピントを合わせる。
主要被写体は顔検出枠が白色になる。
シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った枠は緑色になる。

顔検出枠(灰色/赤紫色)
検出しているが、ピント合わせの対象ではない顔に表示される。[個人顔登録]で登録されている顔は赤紫色で表示される。

1 MENU→[カメラ]→[顔検出]→希望のモードを選ぶ。

✓	**入(登録顔優先)**	登録した顔に優先してピント合わせする。
	入	カメラまかせでピント合わせする顔を選ぶ。
	切	顔検出機能を使わない。

ご注意

- 以下のときは、[顔検出]機能は使えません。
  - [スイングパノラマ]
  - [3Dスイングパノラマ]
  - [マニュアルフォーカス]
  - [プレシジョンデジタルズーム]
- [オートフォーカスエリア]が[マルチ]で、[測光モード]も[マルチ]のときのみ、[顔検出]が選べます。
- 最大8人の顔を検出できます。
- [スマイルシャッター]撮影をするときは、[顔検出]を[切]に設定しても自動的に[入(登録顔優先)]になります。

個人顔登録

あらかじめ顔情報を登録しておくと、[顔検出]が[入(登録顔優先)]のときに、登録された顔を優先して顔検出を行います。

1 MENU→［カメラ］→［個人顔登録］→希望のモードを選ぶ。

新規登録	新しく顔を登録する。
優先順序変更	優先する顔の順序を変更する。
削除	登録された顔を1つ削除する。削除する顔を選び、[実行]を押す。
全削除	登録された顔をすべて削除する。

新規登録

1 MENU→［カメラ］→［個人顔登録］→［新規登録］を選ぶ。

2 登録したい顔をガイド枠内に合わせて、シャッターボタンを押して撮影する。

3 確認メッセージが表示されるので、OKを選ぶ。

ご注意

- 最大8人の顔を登録できます。
- 明るい場所で、正面を向いて撮影してください。帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れると、正しく登録できない場合があります。

優先順序変更

1 MENU→［カメラ］→［個人顔登録］→［優先順序変更］を選ぶ。

2 優先度を変更したい顔を選ぶ。

3 移動先を選ぶ。

数字が小さい場所が優先度が高くなる。

1	2	3	4
5	6	7	8

ご注意

- タッチパネル操作では移動先に8の場所を選ぶことはできません。8の場所に移動させたいときはコントロールホイールで選んでください。

スマイルシャッター

笑顔を検出すると自動で撮影します。

顔検出枠（オレンジ色）

スマイル検出感度インジケーター

1 MENU→［カメラ］→［スマイルシャッター］→［入］を選ぶ。

2 笑顔を検出する感度を設定する場合は、Option→希望の設定を選ぶ。

3 笑顔を待つ。

スマイルレベルがインジケーターの◀を超えると、自動で撮影される。

スマイルシャッター中にシャッターボタンを押しても撮影できる。撮影後はスマイルシャッターに戻る。

4 終了するときは、MENU→［カメラ］→［スマイルシャッター］→［切］を選ぶ。

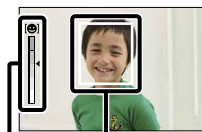
	入	スマイルシャッターを使う。
✓	**切**	スマイルシャッターを使わない。

Optionで笑顔を検出する感度を設定できます。

	(大笑い)	大笑いで検出する。
✓	**(普通の笑顔)**	普通の笑顔で検出する。
	(微笑み)	微笑み程度でも検出する。

ご注意

- 以下のときは、［スマイルシャッター］機能は使えません。
  – ［シーンセレクション］の［手持ち夜景］
  – ［人物ブレ軽減］
  – ［スイングパノラマ］
  – ［3Dスイングパノラマ］
  – ［マニュアルフォーカス］
  – ［プレシジョンデジタルズーム］
- メモリーカードがいっぱいになると自動的に終了します。
- 状況によっては笑顔が正しく検出できない場合があります。
- ドライブモードは、［1枚撮影］または［リモコン］になります。

次のページにつづく↓

検出されやすい笑顔のポイント

① 前髪が目にかからないようにする。
帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れないようにする。

② カメラに対して正面を向き、なるべく水平になるようにする。
目は細めにする。

③ 口を開けてしっかり笑う。
歯が見えているほうが笑顔を検出しやすくなる。

- 顔検出された顔が笑えばシャッターが切れます。
- 選んでいる顔を登録している場合は、その顔でのみ笑顔を検出します。
- 笑顔が検出されない場合はOptionで笑顔を検出する感度を設定してください。

美肌効果

顔検出時、被写体の肌をなめらかに撮影する効果を設定します。

1 MENU→［カメラ］→［美肌効果］→［入］を選ぶ。

2 美肌効果の強さを設定する場合は、Option→希望の設定を選ぶ。

	入	美肌効果を使う。
✓	**切**	美肌効果を使わない。

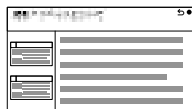
Optionで美肌効果の強さを設定できます。

	HI（高）	美肌効果を強めにして撮影する。
✓	**MID（中）**	美肌効果を標準にして撮影する。
	LO（低）	美肌効果を弱めにして撮影する。

ご注意

- 以下のときは、［美肌効果］機能は使えません。
  - 動画撮影
  - ［連続撮影］
  - ［速度優先連続撮影］
  - ［連続ブラケット撮影］
  - ［セルフタイマー（連続）］
  - ［シーンセレクション］の［スポーツ］
  - ［スイングパノラマ］
  - ［3Dスイングパノラマ］
  - ［画質］が［RAW］
- 被写体によっては、効果が現れないことがあります。

撮影アドバイス一覧

本機に搭載されているすべての撮影アドバイスを表示できます。
以前に見たガイドを、再び確認したいときに使います。

1 MENU→［カメラ］→［撮影アドバイス一覧］を選ぶ。

2 見たい撮影アドバイスを選ぶ。
コントロールホイールを回すと、続きを読むことができる。
見たい項目を［目次］から選んで表示することもできる。

ご注意

- 画面をなぞってスクロールすることはできません。コントロールホイールで操作してください。

DISPボタン(背面モニター)

撮影時に、DISP(画面表示切換)(38ページ)で選択できる画面表示モードを設定します。

1 MENU→［カメラ］→［DISPボタン(背面モニター)］を選ぶ。

2 希望のモードを選ぶ。

✔がついている項目が選択できるモードになる。

3 OKを選ぶ。

グラフィック表示	基本的な撮影情報を表示する。 撮影モードが［スイングパノラマ］［3Dスイングパノラマ］以外のときは、シャッタースピードと絞りをグラフィカルに表示する。	
全情報表示	撮影情報を表示する。	
文字サイズ(大)表示	大きな文字で主要な項目のみを表示する。	
情報表示なし	撮影情報を表示しない。	
ヒストグラム	画像の明暗をグラフ(ヒストグラム)で表示する。	
ファインダー撮影用	撮影画面に情報のみを表示する。 ファインダー(別売)を使用して撮影するときに使う。	

画像サイズ

画像サイズは画像を記録するときの大きさのことです。
画像サイズが大きいほど、大きな用紙にも詳細にプリントできます。小さくすると、たくさん撮影できます。

1 MENU→［画像サイズ］→［画像サイズ］→希望のモードを選ぶ。

静止画

［縦横比］が3：2のときの画像サイズ			用途例
✓	L：16M	4912×3264画素	A3ノビサイズまでの印刷
	M：8.4M	3568×2368画素	A4サイズまでの印刷
	S：4.0M	2448×1624画素	L/2Lサイズまでの印刷
［縦横比］が16：9のときの画像サイズ			**用途例**
✓	L：14M	4912×2760画素	ハイビジョンテレビでの再生
	M：7.1M	3568×2000画素	
	S：3.4M	2448×1376画素	

ご注意

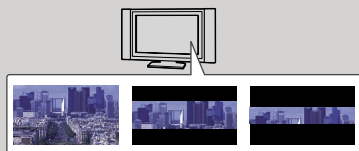
- 16：9で撮影した静止画は、プリント時に両端が切れることがあります。
- ［画質］でRAW画像を選ぶと、画像サイズはL相当となります。

3Dスイングパノラマ

	16:9（16：9）	ハイビジョンテレビでの再生に適したサイズで撮影する。 左右：1920×1080
✓	STD（標準）	標準サイズで撮影する。 左右：4912×1080
	WIDE（ワイド）	長いサイズで撮影する。 左右：7152×1080

次のページにつづく↓

画像サイズを選ぶポイント

選択した画像サイズによって、テレビで再生するときの見えかたが異なります。

16：9　　標準　　ワイド

[標準] [ワイド] 選択時は、コントロールホイールの中央を押すとスクロール再生になります。

スイングパノラマ

スイングパノラマの画像サイズは、[パノラマ撮影方向] によって異なります。

✓	STD（標準）	標準サイズで撮影する。 上下：3872 × 2160 左右：8192 × 1856
	WIDE（ワイド）	長いサイズで撮影する。 上下：5536 × 2160 左右：12416 × 1856

ご注意

- パノラマ撮影した静止画は、プリント時に両端が切れることがあります。

横縦比

静止画の横縦比を選びます。

1 MENU→［画像サイズ］→［横縦比］→希望のモードを選ぶ。

✓	3：2	通常の横縦比率。プリントに適したサイズ。
	16：9	ハイビジョンテレビ比率。ハイビジョンテレビでの再生に適したサイズ。

ご注意

- 以下のときは、設定できません。
  – [スイングパノラマ]
  – [3Dスイングパノラマ]

画質

静止画を保存する画質を設定します。

1 MENU→［画像サイズ］→［画質］→希望のモードを選ぶ。

	RAW（RAW）	ファイル形式：RAW（圧縮Raw形式で記録） デジタル処理などの加工をしていないファイル形式。専門的な用途に合わせて、パソコンで加工するときに選ぶ。 • 画像サイズは常に最大サイズで固定され、液晶モニターには画像サイズは表示されない。
	RAW+J （RAW＋JPEG）	ファイル形式：RAW（圧縮Raw形式で記録）＋JPEG 上記RAW画像とJPEG画像が同時に記録される。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像というように、両方の画像を記録したい場合に便利。 • JPEG画像の画質は［ファイン］に、画像サイズは［L］に固定される。
✓	**FINE**（ファイン）	ファイル形式：JPEG 画像がJPEG形式で圧縮されて記録される。［スタンダード］は［ファイン］に比べて圧縮率が高くなるためデータ量が少なくなる。1枚のメモリーカードに記録できる枚数は増えるが、画質は劣化する。 • パソコンでの加工を予定していない場合は、［ファイン］または［スタンダード］で撮影することをおすすめします。
	STD（スタンダード）	

ご注意

- 以下のときは、設定できません。
  - ［スイングパノラマ］
  - ［3Dスイングパノラマ］
- RAW画像には、DPOF（プリント予約）指定できません。
- ［RAW］［RAW+JPEG］時は、［オートHDR］を設定できません。

RAWについて

RAWファイルとは、デジタル処理などの加工をしていない形式の生データです。これはJPEGのような一般的なファイル形式ではなく、より専門的な用途に合わせた加工を行うための素材となる形式です。
本機で撮影したRAW画像を開くにはCD-ROM（付属）の「Image Data Converter」が必要です。このソフトウェアを使うと、RAW画像を開いた後、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換したり、ホワイトバランス、彩度、コントラストなどを再調整したりすることができます。

パノラマ撮影方向

3Dパノラマ撮影、またはスイングパノラマ撮影時、カメラを動かす方向を設定します。

1 MENU→［画像サイズ］→［パノラマ撮影方向］→希望のモードを選ぶ。

3Dスイングパノラマ

✓	(右)	左から右に向かって撮影する。
	(左)	右から左に向かって撮影する。

スイングパノラマ

✓	(右)	設定した向きでカメラを動かす。
	(左)	
	(上)	
	(下)	

記録方式

動画を記録するときの記録方式を設定します。

1 MENU→［画像サイズ］→［記録方式］→希望のモードを選ぶ。

✓	AVCHD 60i/60p*	AVCHD規格の60i動画、24p動画、ソニー独自規格の60p動画を記録する。ハイビジョンテレビで見るために適した記録方式になる。付属のソフトウェア「PMB」を使ってブルーレイディスク、AVCHDディスク、またはDVD-Videoディスクを作成できる。 • 60iは、約60フィールド/秒、インターレース、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。 • 24pは、約24フレーム/秒、プログレッシブ、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。 • 60pは、約60フレーム/秒、プログレッシブ、Dolby Digital音声で記録される。
	MP4	mp4（AVC）動画を記録する。WEBアップロードやメールに適した記録方式になる。 • MPEG-4、約30フレーム/秒、プログレッシブ、AAC音声、mp4形式で記録される。 • ［記録方式］を［MP4］にして撮影した動画からは付属のソフトウェア「PMB」を使っても、ディスクを作成することはできません。

* 本機は1080 60i対応機です。

他機での動画再生に際してのご注意

本機は、AVCHD方式の記録に MPEG-4 AVC/H.264 のHigh Profileを採用しております。このため、本機でAVCHD方式で記録した動画は次の機器では再生できません。

- High Profile に対応していない他のAVCHD規格対応機器
- AVCHD規格非対応の機器

また、本機は、MP4方式の記録に MPEG-4 AVC/H.264 のMain Profileを採用しております。このため、本機でMP4方式で記録した動画はMPEG-4 AVC/H.264の対応機器以外では再生できません。

記録設定

動画撮影時の画像サイズとフレームレート、画質を設定します。1秒間に使用されるデータ量（平均ビットレート）は、高いほど画質が向上します。

1 MENU→［画像サイズ］→［記録設定］→希望のモードを選ぶ。

［記録方式］が［AVCHD 60i/60p］のとき		平均ビットレート	説明
	60i 24M（FX）	24 Mbps	1920×1080（60i）の高画質で撮影する。
✓	60i 17M（FH）	17 Mbps	1920×1080（60i）の標準画質で撮影する。
	60p 28M（PS）	28 Mbps	1920×1080（60p）の最高画質で撮影する。
	24p 24M（FX）	24 Mbps	1920×1080（24p）の高画質で撮影する。映画のような雰囲気で記録できる。
	24p 17M（FH）	17 Mbps	1920×1080（24p）の標準画質で撮影する。映画のような雰囲気で記録できる。
［記録方式］が［MP4］のとき		平均ビットレート	説明
✓	1440×1080 12M	12 Mbps	1440×1080で撮影する。
	VGA 3M	3 Mbps	VGAサイズで撮影する。

ご注意

- ［記録設定］を［60p 28M（PS）］にして撮影した動画は、「PMB」でのディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。
- ［記録設定］を［60i 24M（FX）］/［24p 24M（FX）］にして撮影した動画は、「PMB」でのAVCHDディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。 そのままの画質で保存したいときはブルーレイディスクに保存してください。
- 60p、24pの動画をテレビで見るときは60p、24pに対応したテレビが必要です。対応していないテレビの場合、60iとして出力されます。

ISO感度

明るさの感度を設定します。

1 MENU→［明るさ・色あい］→［ISO感度］→希望の設定を選ぶ。

✓	ISO AUTO(ISO AUTO)	本機が自動で設定する。
	100/200/400/800/1600/3200/6400/12800/25600	暗い場所や動いている被写体を撮影する場合、ISO感度を上げる（数値を大きくする）と、より速いシャッタースピードに設定でき、ブレを軽減できる。

ご注意

- 以下のときは、［ISO AUTO］に固定されます。
  - ［おまかせオート］
  - ［シーンセレクション］
  - ［人物ブレ軽減］
  - ［スイングパノラマ］
  - ［3Dスイングパノラマ］
- ISO感度が高くなるほど、ノイズが増えます。
- 撮影モードが［プログラムオート］［絞り優先］［シャッタースピード優先］のときは、ISO感度を［ISO AUTO］にすると、ISO100 ～ ISO3200の値で自動設定されます。
- 撮影モード［マニュアル露出］には、ISO感度［ISO AUTO］の設定がありません。［ISO AUTO］の状態で撮影モードを［マニュアル露出］に切り換えると、［100］に切り換わります。撮影状況に合わせて、ISO感度を設定し直してください。

ISO感度（推奨露光指数）の調整

ISO感度とは、光を受け取る撮像素子を含めた記録側の感度値です。同じ露出で撮影しても、設定によって仕上がる画像が変わります。

ISO感度が高い
感度が高いと、露光量が少なくても適正な明るさにできます。ただし、感度を高くすることにともなってノイズが増えます。

ISO感度が低い
ノイズの少ない画像を撮影できます。ただし感度の低さを補うために、シャッタースピードが遅くなるので、手ブレや被写体ブレに注意が必要です。

ホワイトバランス

撮影場所の光の状況に合わせて、色合いを調整します。
画像の色合いが思ったとおりにならないときや、意図して色合いを変化させて雰囲気を表現したいときに使います。

1 MENU→［明るさ・色あい］→［ホワイトバランス］→希望のモードを選ぶ。

Optionで色合いを微調整できる。
設定方法は、以降の各モードの説明箇所をご覧ください。

✓	AWB（オートホワイトバランス）	本機が光源を自動判別し、適した色合いに調整する。
	(太陽光)	被写体を照らしている光源を選ぶと、選んだ光源に適した色合いになる（プリセットホワイトバランス）。
	(日陰)	
	(曇天)	
	(電球)	
	-1(蛍光灯：温白色)	
	0(蛍光灯：白色)	
	+1(蛍光灯：昼白色)	
	+2(蛍光灯：昼光色)	
	(フラッシュ)	
	(色温度・カラーフィルター)	光源の色に合わせて設定する（色温度）。写真用のCC（色補正フィルター）と同様の効果が得られる（カラーフィルター）。
	(カスタム)	カスタムセットで取得した設定を使用する。
	SET(カスタムセット)	基準になる白色を取得する（カスタムホワイトバランス）。

ご注意

- 以下のときは、［ホワイトバランス］は［オートホワイトバランス］に固定されます。
  – ［おまかせオート］
  – ［シーンセレクション］

目次
撮りたい写真から探す
メニューから探す
索引

次のページにつづく↓

光の影響について

被写体の見た目の色は、その場の光の影響を受けます。
本機はこの変化を適正にするように自動調整しますが、ホワイトバランスを使うと、よりお好みの色合いに調整できます。

天候や照明	晴れ	曇り	蛍光灯	電球
光の特性	基準となる白	青みがかる	緑がかる	赤みがかる

色合いを微調整する

1 **MENU→［明るさ・色あい］→［ホワイトバランス］→希望のモードを選ぶ。**

2 **必要に応じて、Option→コントロールホイールの上下左右、または画面上のグラフをタッチして色合いを微調整する。**
G（グリーン）方向、M（マゼンタ）方向、A（アンバー）方向、B（ブルー）方向に色を調整できる。

色温度・カラーフィルター

1 **MENU→［明るさ・色あい］→［ホワイトバランス］→［色温度・カラーフィルター］を選ぶ。**

2 **Option→コントロールホイールを回す、または画面上の項目をタッチして希望の色温度を選ぶ。**
数値が高いほど赤みが強く、低いほど青みが強くなる。

3 **コントロールホイールの上下左右、または画面上のグラフをタッチして色合いを微調整する。**

次のページにつづく↓

カスタムホワイトバランス

1 **MENU→［明るさ・色あい］→［ホワイトバランス］→［カスタムセット］を選ぶ。**

2 **白く写したいものが中央部のフォーカスエリア付近を覆うようにカメラを構え、シャッターボタンを深く押し込む。**
取り込んだ値（色温度とカラーフィルター）が表示され、登録される。

3 **登録した値を呼び出すには、MENU→［明るさ・色あい］→［ホワイトバランス］→［カスタム］を選ぶ。**
Optionで色合いを微調整できる。

ご注意

- シャッターボタンを押すときにフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。登録した値で撮影するときも、フラッシュを発光させて撮影してください。

測光モード

本機が自動で露出を決めるとき、画面のどの部分で光を測るか（測光）を設定します。

1 MENU→［明るさ・色あい］→［測光モード］→希望のモードを選ぶ。

✓	（マルチ）	複数に分割した画面を各エリアごとに測光し、画面全体の最適な露出を決定する（マルチパターン測光）。
	（中央重点）	画面の中央部に重点をおきながら、全体の明るさを測光する（中央重点測光）。
	（スポット）	画面中央部だけで測光する（スポット測光）。逆光にある被写体や、背景と被写体のコントラストが強いときに便利。 スポット測光照準 被写体をここに合わせる

ご注意

- ［マルチ］以外の設定にすると、［顔検出］機能は使えません。
- 以下のときは、［マルチ］に固定されます。
  – 動画撮影
  – ［おまかせオート］
  – ［シーンセレクション］
  – ［プレシジョンデジタルズーム］
  – ［スマイルシャッター］

調光補正

－2.0EVから＋2.0EVの範囲で、1/3EV単位でフラッシュ発光量を調整できます。
調光補正を行うと、フラッシュの発光量のみが変化します。露出補正を行うと、シャッタースピードと絞り値とともにフラッシュの発光量も変化します。

1 フラッシュを取り付け、発光部を持ち上げる。

2 MENU→［明るさ・色あい］→［調光補正］→希望の数値を選ぶ。

＋側にすると発光量が増えて被写体が明るく写り、－側にすると発光量が減って暗く写る。

ご注意

- 以下のときは、[調光補正]機能は使えません。
  - [おまかせオート]
  - [シーンセレクション]
  - [人物ブレ軽減]
  - [スイングパノラマ]
  - [3Dスイングパノラマ]
  - フラッシュが装着されていない
- 被写体がフラッシュ光の最大到達距離(調光距離)より遠くにあるときは、 オーバー側(＋側)の効果が出ないことがあります。また近接撮影では、アンダー側(－側)の効果が出ないことがあります。

人物の明るさを変えるコツ

- 夜景で人物を撮るときは、背景と手前の人物の明るさのバランスが大切です。調光補正でフラッシュの光量を調節して撮影してみましょう。
- 人物が遠すぎるとフラッシュが届かないため、調光補正しても暗い場合は被写体に近づいて撮影しましょう。

DRO/オートHDR

明るさとコントラストを自動補正します。

1 MENU→［明るさ・色あい］→［DRO/オートHDR］→希望のモードを選ぶ。

	(切)	DRO/オートHDR機能を使わない。
✓	(Dレンジオプティマイザー)	被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にする。
	(オートHDR)	露出の異なる3枚の画像を撮影し、アンダー画像の明るい部分とオーバー画像の暗い部分を合成して階調豊かな画像にする。適正露出画像と合成された画像の2枚が記録される。

ご注意

- ［DRO/オートHDR］は、以下の撮影モード時のみ選べます。
  - ［マニュアル露出］
  - ［シャッタースピード優先］
  - ［絞り優先］
  - ［プログラムオート］

Dレンジオプティマイザー

明るさを自動補正します（DRO：Dynamic Range Optimizer）。

1 MENU→［明るさ・色あい］→［DRO/オートHDR］→［Dレンジオプティマイザー］を選ぶ。

2 Option→希望の設定値を選ぶ。

✓	(オート)	本機が自動で調整する。
	Lv1 ～ Lv5	撮影画像の階調を、画像の領域ごとに最適化する。Lv1（弱）～ 5（強）で最適化レベルを選ぶ。

ご注意

- 以下のときは、［オート］に固定されます。
  - ［おまかせオート］
  - ［シーンセレクション］の［ポートレート］［風景］［マクロ］［スポーツ］
- Dレンジオプティマイザー動作時は、ノイズが目立つ場合があります。特に、補正効果を強めるときは、撮影後の画像を確認しながらレベルを選んでください。

次のページにつづく↓

オートHDR

明るい部分から暗い部分までを表現する範囲（階調）が広がり、適切な明るさで撮ることができます（HDR：High Dynamic Range）。適正露出画像と合成された画像の2枚が記録されます。

1 MENU→［明るさ・色あい］→［DRO/オートHDR］→［オートHDR］を選ぶ。

2 Option→希望の設定値を選ぶ。

✓	**HDR AUTO（露出差オート）**	本機が自動で調整する。
	1.0EV ～ 6.0EV	被写体の明暗差に応じて露出差を設定する。1.0EV（弱）～ 6.0EV（強）で最適化レベルを選ぶ。

ご注意

- 撮影後、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ［RAW］［RAW+JPEG］時は、設定できません。
- 1度の撮影で3回シャッターが切られるため、以下に注意してください。
  – 動きや点滅発光などがない被写体のときに設定する
  – 構図が変わらないように撮影する
- 被写体の輝度差の状況や撮影環境によっては、思い通りの効果を得られないことがあります。
- フラッシュ発光時は、効果がほとんど得られません。
- コントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合は、良好なHDR画像が撮影できていない場合あります。カメラが検出できた場合は、再生画像に HDR ! を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

ピクチャーエフェクト

好みの効果を選んで、独自の風合いで撮影できます。

1 MENU→［明るさ・色あい］→［ピクチャーエフェクト］→希望のモードを選ぶ。

✓	OFF（切）	ピクチャーエフェクトを使わない。
	Toy（トイカメラ）	周辺が暗く、シャープ感を抑えた柔らかな仕上がりになる。 Optionで色調を設定する。
	Pop（ポップカラー）	色合いを強調してポップで生き生きとした仕上がりになる。
	Pos（ポスタリゼーション）	原色のみまたは白黒で再現されるメリハリのきいた抽象的な仕上がりになる。 Optionで再現する色を設定する。
	Rtro（レトロフォト）	古びた写真のようにセピア色でコントラストが落ちた仕上がりになる。
	Sfth key（ソフトハイキー）	明るく、透明感や軽さ、優しさ、柔らかさを持ったような仕上がりになる。
	Part（パートカラー）	1色のみをカラーで残し、他の部分はモノクロに仕上がる。 Optionで残す1色を設定する。

目次
撮りたい写真から探す
メニューから探す
索引

次のページにつづく↓

	(ハイコントラストモノクロ)	明暗を強調することで緊張感のあるモノクロに仕上がる。
	(ソフトフォーカス)	柔らかな光につつまれたような雰囲気の仕上がりになる。 Optionで効果の強さを設定する。
	(絵画調HDR)	絵画のように色彩やディテールが強調された仕上がりになる。3回シャッターが切れる。 Optionで効果の強さを設定する。
	(リッチトーンモノクロ)	階調が豊かでディテールも再現されたモノクロに仕上がる。3回シャッターが切れる。
	(ミニチュア)	ミニチュア模型を撮影したように鮮やかでボケの大きな仕上がりになる。 Optionで選んだ部分以外が、大きくぼける。

ご注意

- [RAW] [RAW＋JPEG]のとき、[ピクチャーエフェクト]は設定できません。
- プレシジョンデジタルズーム使用時は[トイカメラ]と[ミニチュア]の効果は得られません。
- [パートカラー]のとき、被写体や撮影条件によっては設定した色が残らないことがあります。
- 以下のときは撮影後に画像処理を行うため、撮影画面で効果を確認できません。撮影後、処理が終わるまで次の撮影はできません。また、動画には適用されません。
  – [ソフトフォーカス]
  – [絵画調HDR]
  – [リッチトーンモノクロ]
  – [ミニチュア]
- [絵画調HDR] [リッチトーンモノクロ]のときは、1度の撮影で3回シャッターが切られるため、以下に注意してください。
  – 動きや点滅発光などがない被写体のときに設定する
  – 構図が変わらないように撮影する
  またコントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合は、良好な結果が得られていない場合があります。カメラが検出できた場合は、再生画像に / を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

クリエイティブスタイル

お好みの画像仕上がりを選べます。
カメラまかせで撮影するシーンセレクションとは異なり、露出（シャッタースピード/絞り）などを好みに応じて調整できます。

1 MENU→［明るさ・色あい］→［クリエイティブスタイル］→希望のモードを選ぶ。

2 コントラスト/彩度/シャープネスを調整する場合は、Option→希望の設定を選ぶ。

✓	Std.（スタンダード）	さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現する。
	Vivid（ビビッド）	彩度とコントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現する。
	Port.（ポートレート）	肌をより柔らかに再現する。人物の撮影に適している。
	Land.（風景）	彩度、コントラスト、シャープネスがより高くなり、鮮やかでメリハリのある風景に再現する。遠くの風景もよりくっきりする。
	Sunset（夕景）	夕焼けの赤さを美しく表現する。
	B/W（白黒）	白黒のモノトーンで表現する。

（コントラスト）、（彩度）、（シャープネス）は、クリエイティブスタイルごとに調整できます。

（コントラスト）	＋側に設定するほど明暗差が強調され、インパクトのある仕上がりになる。
（彩度）	＋側にするほど色が鮮やかになる。－側に設定すれば控えめで落ち着いた色に再現される。
（シャープネス）	解像感を調整できる。＋側に設定すれば輪郭がよりくっきりし、－側に設定すれば柔らかな表現になる。

ご注意

- ［白黒］を選択しているときは、彩度の調整はできません。
- 以下のときは、［クリエイティブスタイル］は［スタンダード］に固定されます。
  – ［おまかせオート］
  – ［シーンセレクション］
  – ［ピクチャーエフェクト］が［切］以外

削除

不要な画像を選んで削除できます。

1 MENU→［再生］→［削除］→希望のモードを選ぶ。

✓	**画像選択**	選んでいる画像を削除する。コントロールホイールの中央を押すか、画像をタッチしてから、OKを選ぶ。
	フォルダー内全て	選択しているフォルダー内すべての画像、またはAVCHDビュー動画をまとめて削除する。
	AVCHDビュー動画全て	

ご注意

- 削除画像の選択ができるのは、100枚までです。
- AVCHDビュー動画とは、[記録方式]を[AVCHD 60i/60p]にして撮影した動画です。

見ている画像を削除するときは

ソフトキーの🗑(削除)を選ぶと、すばやく削除できます(30ページ)。

スライドショー

画像を自動的に連続再生します。
3D対応テレビと接続するときは、3D画像だけをスライドショー再生することもできます。

1 MENU→［再生］→［スライドショー］→希望のモード→OKを選ぶ。

リピート		
	入	繰り返し再生する。
✓	切	すべての画像を再生したら、停止する。
間隔設定		
	1秒	画像が切り換わる間隔を設定する。
✓	3秒	
	5秒	
	10秒	
	30秒	
画像種別		
✓	全て	静止画すべてを通常の静止画で再生する。
	3Dのみ（3D表示）	3D画像のみ表示する。

ご注意

- 一時停止はできません。途中で終了するには、コントロールホイールの中央を押します。
- ［ビューモード］が［フォルダービュー（静止画）］のときのみ、スライドショー再生できます。
- パノラマ画像は画像全体を表示します。パノラマ画像をスクロール再生するには、パノラマ再生中にコントロールホイールの中央を押します。

ビューモード

画像を表示する方法を選びます。

1 MENU→［再生］→［ビューモード］→希望のモードを選ぶ。

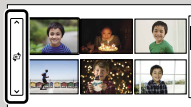
✓	**フォルダービュー（静止画）**	静止画のみをフォルダーごとに表示する。
	フォルダービュー(MP4)	動画(MP4)のみをフォルダーごとに表示する。
	AVCHDビュー	[記録方式]を[AVCHD 60i/60p]にして記録した動画のみを表示する。

一覧表示

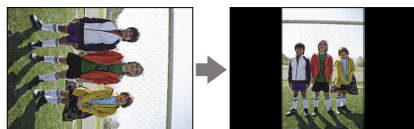
一覧表示させる枚数を選びます。

1 MENU→［再生］→［一覧表示］→希望のモードを選ぶ。

✓	6枚	6枚表示する。	
	12枚	12枚表示する。	

希望のフォルダーを表示する

一覧表示にして、画面左側のバーを選び、コントロールホイールの上下を押して、希望のフォルダーを選びます。またはバーをタッチして選ぶこともできます。バーの中央を押すと、ビューモードを切り換えることができます。

回転

静止画を左に回転します。横向きに表示されている画像を、縦表示にしたいときに使います。回転した画像は、本機の電源を切った後も回転した状態のまま保持されます。

1 MENU→［再生］→［回転］を選ぶ。

2 **コントロールホイールの中央を押す。**
または、画面上の（回転）をタッチする。
画像が左へ回転する。中央を押す、または画面上の をタッチするたびに、回転が繰り返される。

ご注意

- 動画やプロテクトされている画像は回転できません。
- 他機で撮影した画像は本機では回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見るとき、ソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。

プロテクト

撮影した画像を誤って消さないように保護(プロテクト)します。
登録された画像には🔑マークが表示されます。

1 MENU→［再生］→［プロテクト］→希望のモードを選ぶ。

✓	**画像選択**	選んでいる画像にプロテクトをかけたり、解除したりする。コントロールホイールの中央を押すか、画像をタッチしてから、OKを選ぶ。
	静止画全て解除	静止画のプロテクトをすべて解除する。
	動画(MP4)全て解除	動画(MP4)のプロテクトをすべて解除する。
	AVCHDビュー動画全て解除	AVCHDビュー動画のプロテクトをすべて解除する。

ご注意

- プロテクトがかけられるのは、1度に100枚までです。
- AVCHDビュー動画とは、[記録方式]を[AVCHD 60i/60p]にして撮影した動画です。

拡大

再生画像の一部を拡大できます。ピント具合を確認したいときなどに使います。

1 MENU→［再生］→［拡大］を選ぶ。

2 コントロールホイールを回して、拡大倍率を調整する。
　または、画面上のまたはをタッチする。

3 コントロールホイールの上下左右、または画像をなぞって、表示する場所を移動する。
　画像をタッチすると、タッチした位置を中心に拡大する。

4 拡大をやめるには、✕を選ぶ。

ご注意

- 動画は拡大できません。
- パノラマ再生中は、一時停止させた後に（拡大）で拡大します。

拡大倍率範囲について

拡大倍率は、画像サイズによって異なります。

画像サイズ	拡大倍率範囲
L	約1.0 ～ 13.6倍
M	約1.0 ～ 9.9倍
S	約1.0 ～ 6.8倍

音量設定

動画再生時の音量を、8段階で調整できます。動画再生時のみ表示されます。

1 MENU→［再生］→［音量設定］→**希望の数値を選ぶ。**

再生中に音量を変える

動画再生中に、コントロールホイールの下を押しても音量設定画面が表示されます。
実際に音量を聞きながら調整できます。

プリント指定

撮影した画像をプリントする際に、どの画像をプリントするかを、あらかじめメモリーカード上に指定することができます。
登録された画像には DPOF（プリント予約）マークが表示されます。DPOFとは「Digital Print Order Format」の略です。

1 MENU→［再生］→［プリント指定］→希望の設定を選ぶ。

DPOF指定		
✓	**画像選択**	画像を選んでプリント指定する。 ① 画像を選んで、中央を押す。✓マークが付いた画像をもう一度選ぶと、プリント予約の選択は解除される。 画像をタッチして、選択/解除することもできる。 ② プリント予約したいすべての画像で繰り返す。
	全画像解除	すべてのプリント指定を解除する。
日付プリント		
	入	DPOF指定した画像を日付を入れてプリントするか設定する。
✓	切	

ご注意

- 動画はプリント予約マークが付けられません。
- プリント指定ができるのは、999枚までです。
- DPOF指定は印刷後も残ったままです。印刷が終了した後は解除することをおすすめします。

AF補助光

AF補助光により、暗い所やコントラストの低い被写体でもオートフォーカスでピントが合わせやすくなります。シャッターボタンを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間、自動的に赤い補助光を発光します。

1 MENU→［セットアップ］→［AF補助光］→希望の設定を選ぶ。

✓	**オート**	AF補助光を使用する。
	切	使用しない。

ご注意

- 以下のときは、AF補助光は発光されません。
  - [オートフォーカスモード]が[コンティニュアス]
  - [シーンセレクション]の[風景][夜景][手持ち夜景][スポーツ]
  - [スイングパノラマ]
  - [3Dスイングパノラマ]
  - 動画撮影
  - Aマウントレンズ(別売)使用時
- AF補助光を使用するときは、[オートフォーカスエリア]の設定は無効になり、オートフォーカスエリア枠は点線で表示されます。中央付近を優先したAF動作になります。

赤目軽減発光

フラッシュ撮影時に目が赤く写るのを軽減するため、フラッシュが2回以上プリ発光します。

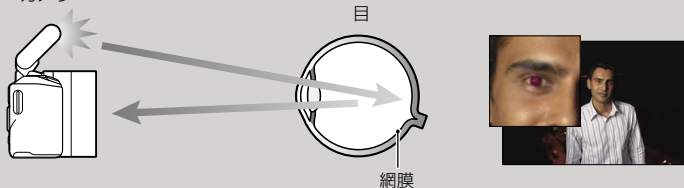
1 MENU→［セットアップ］→［赤目軽減発光］→希望の設定を選ぶ。

	入	赤目軽減発光する。
✓	切	赤目軽減発光しない。

ご注意

- ［赤目軽減発光］機能を使うときは、フラッシュを取り付け、フラッシュ発光部を上げておいてください。
- ［スマイルシャッター］が［入］のときは、設定できません。
- 赤目軽減の効果には個人差があります。また被写体までの距離や、プリ発光を見ていないなどの条件によって、効果が表れにくいことがあります。

なぜ目が赤く写ってしまうの？

暗い場所では目の瞳孔が開いており、フラッシュ光によって網膜の血管が写し出され、目が赤く写ってしまうことがあります。

FINDER/LCD切換設定

電子ビューファインダー（別売）を取り付けたとき、電子ビューファインダーに搭載されているセンサーで電子ビューファインダーをのぞいている状態かどうかを検出することができます。

1 MENU→［**セットアップ**］→［**FINDER/LCD切換設定**］→**希望の設定を選ぶ。**

✓	**オート**	電子ビューファインダーをのぞくと、自動的に電子ビューファインダー画面に切り換わる。
	マニュアル	電子ビューファインダーと液晶モニターの切り換えを電子ビューファインダーのボタンで手動で行う。

ライブビュー表示

液晶モニターの表示に、露出補正やホワイトバランスなどの設定値を反映させるかどうかを設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［ライブビュー表示］→希望の設定を選ぶ。

✓	**設定効果反映On**	設定値を画面表示に反映させる。
	設定効果反映Off	設定値を画面表示に反映させない。 見たままの表示で構図に集中できる。

ご注意

- ［設定効果反映Off］は、以下の撮影モード時のみ選べます。
  - –［マニュアル露出］
  - –［シャッタースピード優先］
  - –［絞り優先］
  - –［プログラムオート］

オートレビュー

撮影直後に、撮影した画像を確認することができます。その表示時間を変更できます。

1 MENU→［セットアップ］→［オートレビュー］→希望の設定を選ぶ。

	10秒	設定した秒数だけ表示する。 このとき⊕(拡大)を選ぶと、撮影した画像を拡大再生して確認することができる。
	5秒	
✓	2秒	
	切	オートレビューしない。

ご注意

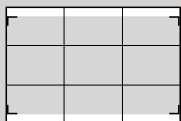
- [縦記録画像の再生]が[縦向き]になっていても、オートレビュー時は横向きで表示されます。
- [3Dスイングパノラマ][スイングパノラマ]撮影時に[グリッドライン]が[切]以外でも、オートレビュー時にグリッドラインは表示されません。
- [DRO/オートHDR]や[美肌効果]などの設定によっては、画像処理をする前の画像を一時的に表示してから、画像処理が適用された画像を表示することがあります。

グリッドライン

構図合わせのための補助線であるグリッドライン表示の設定をします。

1 MENU→［セットアップ］→［グリッドライン］→希望の設定を選ぶ。

	3分割	3分割の線の近くに主要なものを置くと、バランスのよい構図になる。
	方眼	方眼線により構図の傾きが確認しやすく、風景写真や接写、複写などの構図決定に適している。
	対角＋方眼	対角線上に被写体を配することで、躍動感や力強さなどを表現できる。
✓	**切**	グリッドラインを表示しない。

動画の撮影可能範囲を確認する

撮影可能範囲

［グリッドライン］を［切］以外にしたときに表示される枠は、動画の撮影可能範囲を表しています。動画撮影前に確認すると便利です。

ピーキングレベル

マニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を指定した色で強調します。ピントを確認しやすくなります。

1 MENU→［セットアップ］→［ピーキングレベル］→希望の設定を選ぶ。

	高	ピーキングを強めにかける。
	中	ピーキングを適度にかける。
	低	ピーキングを弱めにかける。
✓	**切**	ピーキングをかけない。

ご注意

- 画像のシャープな部分をピントが合ったと判断するため、被写体やレンズによって強調表示効果が異なります。
- HDMI接続時はピーキングが表示されません。

ピーキング色

マニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を強調するピーキングの色を設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［ピーキング色］→希望の設定を選ぶ。

✓	**ホワイト**	ピーキングの色を白にする。
	レッド	ピーキングの色を赤にする。
	イエロー	ピーキングの色を黄色にする。

ご注意

- ［ピーキングレベル］が［切］のときは設定できません。

MFアシスト

マニュアルフォーカスモードやダイレクトマニュアルフォーカスモードでピント合わせをするときに、画像を自動で拡大表示してピントを合わせやすくします。

1 MENU→［セットアップ］→［MFアシスト］→希望の設定を選ぶ。

2 フォーカスリングを回してピントを合わせる。

画像が4.8倍に拡大される。9.5倍に拡大することもできる。

- DMF（ダイレクトマニュアルフォーカス）時は、オートフォーカスでピントを合わせたあとにシャッターボタン半押ししたままフォーカスリングを回す。

✓	**入**	拡大表示する。拡大表示する時間を［MFアシスト時間］で設定できる。
	切	拡大表示しない。

ご注意

- 以下のときは、［MFアシスト］機能は使用できません。
  - 動画撮影
  - ［プレシジョンデジタルズーム］
- Aマウントレンズ（別売）装着時は、ソフトキーのMFで拡大表示になります。

MFアシスト時間

[MFアシスト]機能で拡大表示する時間を設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［MFアシスト時間］→希望の設定を選ぶ。

	無制限	拡大表示を無制限で行う。
	5秒	拡大表示を5秒間行う。
✓	2秒	拡大表示を2秒間行う。

ご注意

- [MFアシスト]が[切]のときは設定できません。

色空間

色を数値の組み合わせによって表現するための方法、あるいは表現できる色の範囲のことを色空間といいます。画像の用途によって色空間を変更できます。

1 MENU→［セットアップ］→［色空間］→希望の設定を選ぶ。

✔	sRGB	デジタルカメラの標準となっている色空間。画像調整を行わずに印刷する場合など、一般的な撮影ではsRGBを使う。
	AdobeRGB	より広い色再現範囲を持っている色空間。鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果がある。 撮影した画像のファイル名は、"_DSC"で始まる。

ご注意

- Adobe RGBは、カラーマネジメントおよびDCF2.0オプション色空間に対応したアプリケーションソフトやプリンター用です。非対応のソフトやプリンターでは、正しい色での表示、印刷ができないことがあります。
- Adobe RGBで撮影した画像は、本機およびAdobe RGB非対応機器で表示すると、低彩度になります。

手ブレ補正

レンズの手ブレ補正機能を使うかどうかを設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［手ブレ補正］→希望の設定を選ぶ。

✓	**入**	手ブレ補正を行う。
	切	手ブレ補正を行わない。 三脚使用時は［切］にすることをおすすめします。

ご注意

- 以下のときは、［入］に固定されます。
  - ［シーンセレクション］の［手持ち夜景］
  - ［人物ブレ軽減］
- E16mm F2.8レンズやAマウントレンズ（別売）装着時など、レンズ名称に「OSS」表記のないレンズを使用しているときは設定できません。

レンズなし時のレリーズ

レンズを取り付けていない状態で、シャッターが切れるかどうかを設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［レンズなし時のレリーズ］→希望の設定を選ぶ。

	許可	レンズを取り付けていなくてもシャッターが切れる。本機を天体望遠鏡に取り付ける場合などは、[許可]を選んでおくとシャッターが切れる。
✓	**禁止**	レンズを取り付けていないとシャッターが切れない。

ご注意

- 天体望遠鏡など、レンズ信号接点を持たないレンズをお使いの場合は、正確な測光が行えません。撮影結果を見て、手動で露出を合わせてください。

アイスタートAF

電子ビューファインダー（別売）を取り付けているとき、電子ビューファインダーをのぞくと同時にオートフォーカスするかどうかを設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［アイスタートAF］→希望の設定を選ぶ。

	入	電子ビューファインダーをのぞくと、自動でピントを合わせる。
✓	**切**	電子ビューファインダーをのぞいても、ピントの自動調整を行わない。

ご注意

- マウントアダプター LA-EA2（別売）使用時のみ有効です。

電子先幕シャッター

電子先幕シャッター機能を使うと、短いレリーズタイムラグで撮影できます。

1 MENU→［セットアップ］→［電子先幕シャッター］→希望の設定を選ぶ。

✓	**入**	電子先幕シャッター機能を使う。
	切	電子先幕シャッター機能を使わない。

ご注意

- 大口径レンズを装着して、高速のシャッタースピードで撮影する場合、被写体や撮影環境によってボケ像が欠けることがあります。その場合は[切]に設定してお使いください。
- ミノルタ/コニカミノルタ製レンズを使用するときは[切]に設定してお使いください。[入]に設定すると、適正露出にならなかったり、画像の明るさにムラが出たりします。

長秒時ノイズリダクション

長時間露光時に目立つ粒状ノイズを軽減するため、シャッタースピードが1秒または1秒より遅いときにノイズ軽減処理を行います。

1 MENU→［セットアップ］→［長秒時ノイズリダクション］→希望の設定を選ぶ。

✔	**入**	シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をする。処理中はメッセージが表示され、撮影できない。画質を優先するときに選ぶ。
	切	ノイズ軽減処理をしない。撮影タイミングを優先するときに選ぶ。

ご注意

- 以下のときは、[入]にしていてもノイズリダクションは行われません。
  - [連続撮影]
  - [速度優先連続撮影]
  - [連続ブラケット撮影]
  - [シーンセレクション]の[手持ち夜景]
  - [人物ブレ軽減]
  - [スイングパノラマ]
  - [3Dスイングパノラマ]
- 以下のときは、[長秒時ノイズリダクション]は変更できません。
  - [おまかせオート]
  - [シーンセレクション]
  - [人物ブレ軽減]
  - [スイングパノラマ]
  - [3Dスイングパノラマ]

高感度ノイズリダクション

高感度撮影した場合のノイズ軽減処理を設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［高感度ノイズリダクション］→希望の設定を選ぶ。

✓	**標準**	高感度ノイズリダクションの処理を標準的に行う。
	弱	高感度ノイズリダクションの処理を弱めに行う。

ご注意

- 以下のときは、[高感度ノイズリダクション]の設定はできません。
  – [スイングパノラマ]
  – [3Dスイングパノラマ]
- RAW画像にはノイズリダクションは行われません。

レンズ補正(周辺光量)

レンズに起因する画面周辺が暗くなる現象を補正します。

1 MENU→［セットアップ］→［レンズ補正(周辺光量)］→希望の設定を選ぶ。

✓	**オート**	画面の周辺が暗くなるのを自動で補正する。
	切	画面の周辺が暗くなるのを自動で補正しない。

ご注意

• ［レンズ補正(周辺光量)］は、Eマウントレンズでのみ使用できます。

レンズ補正(倍率色収差)

レンズに起因する画面周辺部の色のずれを軽減します。

1 MENU→[**セットアップ**]→[**レンズ補正(倍率色収差)**]→**希望の設定を選ぶ。**

✓	**オート**	色のずれを自動で軽減する。
	切	色のずれを補正しない。

ご注意

- [レンズ補正(倍率色収差)]は、Eマウントレンズでのみ使用できます。

レンズ補正(歪曲収差)

レンズに起因する画面の歪みを補正します。

1 MENU→［セットアップ］→［レンズ補正(歪曲収差)］→希望の設定を選ぶ。

	オート	画面の歪みを自動で補正する。
✓	**切**	画面の歪みを補正しない。

ご注意

- ［レンズ補正(歪曲収差)］は、Eマウントレンズでのみ使用できます。

動画音声記録

動画撮影時に音声を記録するかどうかを設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［動画音声記録］→希望の設定を選ぶ。

✓	入	撮影時に音声も記録する（ステレオ）。
	切	撮影時に音声を記録しない。

ご注意

• 設定を［入］にすると、撮影中のレンズやカメラの作動音なども一緒に記録されます。

風音低減

動画撮影時に風音を低減するかどうかを設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［風音低減］→希望の設定を選ぶ。

	入	風音低減する。
✓	**切**	風音低減しない。

ご注意

- 風が強く吹いていない場所で[入]にすると、風以外の音も小さく記録される場合があります。
- 別売のマイク使用時は、[入]にしていても風音低減は行われません。

AF微調整

マウントアダプター LA-EA2（別売）を使用してAマウントレンズを装着時、レンズごとにピント合わせの位置を調整し、登録できます。

1 MENU→［セットアップ］→［AF微調整］を選ぶ。

2［AF微調整設定］→［入］を選ぶ。

3［調整値］→希望の数値→OKを選ぶ。

AF微調整設定	AF微調整を有効にするかを設定する。[入]を選ぶと有効になる。
調整値	−20 ～ +20の範囲で最適な数値を選ぶ。 値を大きくするとピントが合う位置がカメラから遠ざかり、値を小さくするとピントが合う位置がカメラに近づく。
調整値クリア	設定されている調整値を取り消す。

ご注意

- 調整は実際に撮影する環境で行うことをおすすめします。
- すでに登録されたレンズを装着しているときは、登録された調整値が表示されます。未登録レンズの場合は[±0]が表示されます。調整値が[−]と表示される場合は、すでに登録したレンズが30種になっています。あらたに登録するには、登録を削除するレンズを装着して調整値を[±0]にするか、[調整値クリア]ですべての登録された調整値を削除してください。
- 他社のレンズをお使いの際にAF微調整を行うと、ソニー、ミノルタ、コニカミノルタ製のレンズでの調整値に影響が出る場合があります。他社のレンズではAF微調整を設定しないでください。
- ソニー、ミノルタ、コニカミノルタで同じ仕様のレンズをお使いの場合、個々にAF微調整の設定はできません。

メニュー呼び出し先

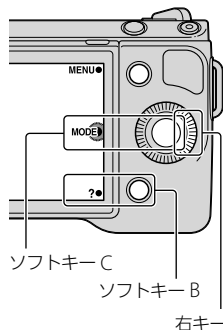
メニューを表示したとき、常に先頭の画面から表示するか、前回設定した項目の画面を表示するかを設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［メニュー呼び出し先］→**希望の設定を選ぶ。**

	先頭	常に先頭から表示する。
✓	**前回位置**	前回設定した項目から表示する。前回の設定操作をすぐにやり直したいときに便利です。

カスタムキー設定

あらかじめキーに機能を設定しておくと、撮影情報画面でキーを押すだけで設定しておいた機能を実行できます。

1 MENU→［セットアップ］→［カスタムキー設定］→希望の設定を選ぶ。

右キーの設定			
	撮影モード		ホワイトバランス
	撮影アドバイス		測光モード
	フォーカス切換		DRO/オートHDR
	オートフォーカスモード		ピクチャーエフェクト
	オートフォーカスエリア		クリエイティブスタイル
	プレシジョンデジタルズーム		フラッシュモード
	顔検出		調光補正
	スマイルシャッター		MFアシスト
	美肌効果		再押しAEL（132ページ）
	画質	✓	未設定
	ISO感度		
ソフトキー Bの設定			
	撮影モード		測光モード
✓	撮影アドバイス		DRO/オートHDR
	オートフォーカスモード		ピクチャーエフェクト
	プレシジョンデジタルズーム		クリエイティブスタイル
	顔検出		フラッシュモード
	スマイルシャッター		調光補正
	美肌効果		MFアシスト
	画質		再押しAEL（132ページ）
	ISO感度		未設定
	ホワイトバランス		

次のページにつづく↓

ソフトキー Cの設定		
✔	**撮影モード**	撮影モードを呼び出す。
	カスタム	[カスタム1][カスタム2][カスタム3][カスタム4][カスタム5]に割り当てた機能を呼び出す。

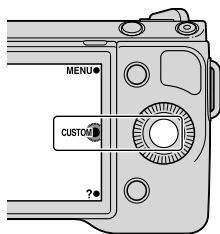
カスタム1 ～ 5	
各カスタムの初期設定	設定可能な機能
	フォーカス切換
	オートフォーカスモード
	オートフォーカスエリア
	顔検出
	スマイルシャッター
	美肌効果
	画質
[カスタム1]	**ISO感度**
[カスタム2]	**ホワイトバランス**
	測光モード
[カスタム3]	**DRO/オートHDR**
	ピクチャーエフェクト
	クリエイティブスタイル
	フラッシュモード
[カスタム4] / [カスタム5]	**未設定**

ご注意

- [カスタムキー設定]は、以下の撮影モード時のみ設定できます。また、コントロールホイールの右キー、ソフトキー B、ソフトキー Cに設定した機能は、以下の撮影モード時のみ呼び出せます。
  – [マニュアル露出]
  – [シャッタースピード優先]
  – [絞り優先]
  – [プログラムオート]
- [MFアシスト]は、[フォーカス切換]が[マニュアルフォーカス]に設定されているときに有効です。
- 以下のときは、[ソフトキー Bの設定]は無効になります。
  – [オートフォーカスエリア]が[フレキシブルスポット]に設定されているとき
  – SAM、SSM以外のAマウントレンズ(別売)装着時
- [カスタム1]、[カスタム2]、[カスタム3]、[カスタム4]、[カスタム5]のすべてを設定する必要はありません。

次のページにつづく↓

ソフトキー Cの[カスタム]に割り当てた機能を呼び出す

1 CUSTOM（カスタム）表示が出ているとき、ソフトキー Cを押す。
   または、画面上のCUSTOM（カスタム）をタッチする。
2 コントロールホイールの右または左で、[カスタム1] [カスタム2] [カスタム3] [カスタム4] [カスタム5]を選ぶ。

再押しAEL

被写体にとって適正な露出にならないとき、被写体が適正な明るさになる箇所で測光し、露出を固定して撮影します。

1 **MENU→［セットアップ］→［カスタムキー設定］→［右キーの設定］または［ソフトキー Bの設定］を選ぶ。**

2 **［再押しAEL］を選ぶ。**
右キー、またはソフトキー BがAELボタンになる。

3 **露出を合わせる箇所にカメラを向ける。**
露出が設定される。

4 **AELボタンを押す。**
露出が固定され、✱（AEロック）が点灯する。

5 **撮影したい被写体にピントを合わせ、撮影する。**

6 **露出固定を解除するときは、もう一度AELボタンを押す。**
手順1で［ソフトキー Bの設定］を選ぶと、画面にAELが表示され、タッチして操作することもできる。

タッチ操作

タッチパネルで操作するかどうかを設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［タッチ操作］→希望の設定を選ぶ。

✓	**入**	タッチパネルで操作する。
	切	タッチパネルで操作しない。

ご注意

- 以下のときは、[タッチ操作]を[入]に設定していてもタッチパネルで操作できません。
  – テレビ出力中
  – USB接続中
  – 電子ビューファインダー（別売）表示中

操作音

本機を操作したときに鳴る操作音の設定を変更したり、消したりします。

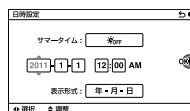
1 MENU→［セットアップ］→［操作音］→希望の設定を選ぶ。

✓	入	コントロールホイールやソフトキーを押したときや、画面をタッチしたときなどに、音が鳴る。
	切	音は鳴らない。

日時設定

時刻を再設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［日時設定］を選ぶ。

2 日時などを設定する。

サマータイム	サマータイムのON/OFFを選ぶ。日本国内で使用するときは、OFFを選ぶ。
表示形式	日付表示順を選ぶ。

ご注意

- 画面をタッチして日時を設定することはできません。
- 本機には画像に日付を挿入する機能はありません。CD-ROM（付属）に収録されている「PMB」を使用すると、日付を入れて保存や印刷ができます。

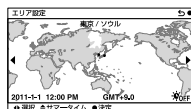
サマータイムとは

夏の一定期間、日照時間を有効に使うために時計を標準時刻より進める制度で、欧米諸国では広く採用されています。本機でサマータイムを[入]にすると、時計が1時間進みます。

エリア設定

本機を使用する場所の時刻に合わせることができます。
海外旅行先などのエリアに合わせておくと、本機の時刻も更新されて便利です。

1 MENU→［セットアップ］→［エリア設定］→**希望の設定を選ぶ。**

2 コントロールホイールの左右で、エリアを選ぶ。

ご注意

- 画面をタッチしてエリアを選ぶことはできません。

ヘルプガイド表示

本機を操作したときに、ヘルプガイドを表示するかどうかを設定できます。

1 MENU→［セットアップ］→［ヘルプガイド表示］→希望の設定を選ぶ。

✓	**入**	ヘルプガイドを表示する。
	切	表示しない。すぐに次の操作に進みたいときに便利。

パワーセーブ

自動的に省電力モード（パワーセーブ）になるまでの時間を設定できます。シャッターボタン半押しなどの操作をすれば、撮影を再開できます。

1 MENU→［セットアップ］→［パワーセーブ］→希望の設定を選ぶ。

	30分	設定した時間でパワーセーブになる。
	5分	
✓	1分	
	20秒	
	10秒	

ご注意

- 長時間使わないときは、電源スイッチを「OFF」にしてください。

モニター明るさ

本機は明るさセンサー（11ページ）により、周囲の明るさに合わせて、液晶モニターの明るさを自動調整します。これを手動で変えることもできます。

1 MENU→［セットアップ］→［モニター明るさ］→希望の設定を選ぶ。

✓	**オート**	自動調整する。
	マニュアル	−2 ～＋2の範囲で明るさを選ぶ。
	屋外晴天	屋外の使用に適した明るさに自動調整する。

ご注意

- ［オート］設定時は、明るさセンサーを手などでおおわないでください。
- ［オート］設定時にACアダプター AC-PW20（別売）を使うと、液晶モニターは常に+2の明るさに設定されます。

ファインダー明るさ

電子ビューファインダー（別売）を取り付けているとき、周囲の明るさに合わせて、電子ビューファインダーの明るさを自動調整します。

1 MENU→［セットアップ］→［ファインダー明るさ］→希望の設定を選ぶ。

✓	**オート**	自動調整する。
	マニュアル	−1 〜 +1の範囲で明るさを選ぶ。

画面色

液晶モニターの色を選びます。

1 MENU→［セットアップ］→［画面色］→希望の設定を選ぶ。

	ブラック	設定した色に変更する。
✓	ホワイト	
	ブルー	
	ピンク	

ワイド画像

横縦比が16：9画像の表示方法を設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［ワイド画像］→希望の設定を選ぶ。

	フル	ワイド画像を画面いっぱいに表示する。	
✓	標準	ワイド画像と画面操作情報を表示する。	

縦記録画像の再生

縦向きで記録した静止画の再生方法を設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［縦記録画像の再生］→希望の設定を選ぶ。

✓	**縦向き**	縦向きで表示する。
	横向き	横向きで表示する。

ご注意

- テレビやパソコンで再生する場合は、[横向き]にしていても縦向きになります。

HDMI解像度

本機とHDMI端子のあるハイビジョンテレビをHDMIケーブル(別売)で接続して見る場合に、HDMI端子からテレビに出力する解像度を選びます。

1 MENU→［セットアップ］→［HDMI解像度］→希望の設定を選ぶ。

✓	**オート**	本機がハイビジョンテレビを自動認識し、出力する解像度を決定する。
	1080p	HD画質(1080p)で出力する。
	1080i	HD画質(1080i)で出力する。

ご注意

- [オート]で正しく画面が表示されない場合は、接続するテレビに合わせて、[1080i]または[1080p]を選んでください。

HDMI機器制御

HDMIケーブル（別売）を使ってブラビアリンク対応テレビをつないだ場合に、テレビのリモコンで本機を操作できます。ブラビアリンクについては161ページをご覧ください。

1 MENU→［セットアップ］→［HDMI機器制御］→希望の設定を選ぶ。

✓	入	テレビのリモコンで操作する。
	切	テレビのリモコンで操作しない。

ご注意

- 2008年以降に発売されたブラビアリンク対応テレビで使用できます。

USB接続

USB接続の方法を設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［USB接続］→希望の設定を選ぶ。

✓	**オート**	接続するパソコンやその他USB機器に応じて、マスストレージとMTPを自動で切り換える。Windows 7の場合にはMTPで接続され、Windows 7特有の機能が使用できる。
	マスストレージ	本機とパソコン、その他USB機器と接続するときに使う。通常はこのモード。
	MTP	本機とパソコン、その他USB機器をMTP接続する。Windows 7の場合はMTP接続され、Windows 7特有の機能が使用できる。それ以外（Windows Vista/XP、Mac OS X）の場合は自動再生ウィザードが起動し、本機に設定されている記録フォルダー内の静止画をパソコンに取り込む。

ご注意

- ［オート］に設定しているときは、接続に時間がかかる場合があります。

クリーニングモード

イメージセンサーをクリーニングします。

1 MENU→［セットアップ］→［クリーニングモード］→OKを選ぶ。

「クリーニング後はカメラの電源をOFFにしてください　開始しますか？」というメッセージが表示される。

2 OKを選ぶ。

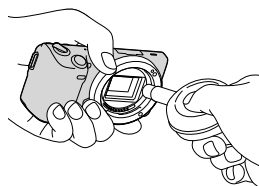
アンチダスト駆動が自動的に行われる。

3 本機の電源を切る。

4 レンズをはずす。

5 ブロアーでイメージセンサー表面と、その周辺のほこりを吹き飛ばす。

6 レンズを取り付ける。

ご注意

- バッテリー残量が (残量が3個)以上でないと、クリーニングモードは起動しません。クリーニング時は、ACアダプター AC-PW20（別売）の使用をおすすめします。
- スプレー式のブロアーは、水滴が本機内部に飛び散るので使用しないでください。
- ブロアーの先端がイメージセンサーに当たらないように、マウントより中に入れないでください。
- ほこりが下に落ちやすいよう、本機をやや下向きにしてください。
- クリーニング中にカメラに衝撃を与えないでください。
- 適度な風量でクリーニングしてください。風量が強すぎると内部を傷めることがあります。
- この手順でクリーニングを行ってもほこりが取れない場合は、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

バージョン表示

お手持ちのカメラとレンズのバージョンを表示します。本機のファームウェアのアップデートがリリースされたときなどに確認します。

1 MENU→［セットアップ］→［バージョン表示］を選ぶ。

ご注意

- バッテリー残量が (残量が3個)以上でないと、アップデートは行えません。充分に充電したバッテリーを使うか、ACアダプター AC-PW20（別売)の使用をおすすめします。

デモモード

本機の「デモモード」とは、一定時間以上の操作をしないと、自動的にメモリーカード内に記録されている動画のスライドショー（デモンストレーション）が始まる機能です。
通常は、[切]に設定します。

1 MENU→［セットアップ］→［デモモード］→希望の設定を選ぶ。

	入	約1分間操作をしないと、自動的に動画でデモンストレーションが始まる。
✓	切	デモンストレーションを表示しない。

ご注意

- ACアダプター AC-PW20（別売）で接続しているときのみ、設定できます。
- メモリーカード内に動画が記録されていないときは、[入]にしていてもデモンストレーションは始まりません。
- [入]にしていると、省電力モード（パワーセーブ）には入りません。

設定値リセット

本機の主な設定がお買い上げ時の設定に戻ります。
[設定値リセット]を実行しても、画像は削除されません。

1 MENU→［セットアップ］→［設定値リセット］→OKを選ぶ。

ご注意

- 設定値リセット中は電源が切れないようにご注意ください。
- 以下の設定はリセットされません。
  - [日時設定]
  - [エリア設定]
  - [個人顔登録]で登録されている顔
  - [AF微調整]

フォーマット

メモリーカードの動作を安定させるために、メモリーカードを本機で初めてお使いになる場合は、まず、本機でフォーマットすることをおすすめします。フォーマットすると、メモリーカードに記録されているすべてのデータは消去され、元に戻すことはできません。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。

1 MENU→［セットアップ］→［フォーマット］→OKを選ぶ。

ご注意

- フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが消去され、元に戻せません。
- フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はメモリーカードを抜かないでください。
- メモリーカードのフォーマットは本機で行ってください。パソコンでメモリーカードのフォーマットを行うと、フォーマット形式によってはメモリーカードが使えなくなることがあります。

ファイル番号

ファイル番号の付けかたを変更します。

1 MENU→［セットアップ］→［ファイル番号］→希望の設定を選ぶ。

✓	**連番**	ファイル番号をリセットせず、9999までファイル番号を続ける。
	リセット	以下の場合にファイル番号をリセットし、0001から番号を付ける。同一フォルダー内にファイルが存在している場合は、その続きから始まる。 • 保存フォルダーの形式が変更された場合 • フォルダー内の全画像が削除された場合 • メモリーカードを交換した場合 • メモリーカードをフォーマットした場合

フォルダー形式

撮影した静止画は、メモリーカード内のDCIMフォルダーの下に自動生成されたフォルダーに保存されます。そのフォルダー名の付けかたを変更します。

1 MENU→［セットアップ］→［フォルダー形式］→希望の設定を選ぶ。

✔	**標準形式**	フォルダー名が、フォルダー番号＋MSDCFになる。 例：100MSDCF
	日付形式	フォルダー名が、フォルダー番号＋年月日（西暦下1桁月日4桁）になる。 例：10010405（100フォルダー、2011年4月5日）

ご注意

- 動画のフォルダー形式は、「フォルダー番号+ANV01」で固定されます。

撮影フォルダー選択

標準形式フォルダーを選択時、フォルダーが2つ以上存在する場合は、撮影した静止画を保存するフォルダー（撮影フォルダー）を選べます。

1 MENU→ [セットアップ] → [撮影フォルダー選択] →希望のフォルダーを選ぶ。

ご注意

- 日付形式フォルダー設定中は、撮影フォルダーを選べません。
- 動画（MP4）ファイルも、選択した静止画用フォルダーと同じ番号の動画用フォルダーに記録されます。

フォルダー新規作成

メモリーカードの中に新しいフォルダーを作成します。
画像は、違うフォルダーを選ぶか、更に新しいフォルダーを作成するまで、そのフォルダーに記録されます。

1 MENU→［セットアップ］→［フォルダー新規作成］→OKを選ぶ。

既存番号＋1のフォルダーが作成される。

ご注意

- 同じ番号の静止画用のフォルダーと動画用のフォルダーが同時に作られます。
- 他機で使用していたメモリーカードを本機に入れて撮影すると、自動的に新しいフォルダーを作成する場合があります。
- 1つのフォルダー番号に記録できる画像は最大4000枚です。フォルダー容量を超えると、自動的に新しいフォルダーが作成されます。

管理ファイル修復

パソコンでファイルを操作したなどの原因で、画像を管理しているファイルに何らかの異常が発生すると、メモリーカード内の画像が再生できなくなります。
そのような場合に管理ファイルの修復を行います。

1 MENU→［セットアップ］→［管理ファイル修復］→OKを選ぶ。
管理ファイル修復の画面になる。
終わるまでそのままお待ちください。

ご注意

- 充分に充電したバッテリーをお使いください。残量の少ないバッテリーを使用して行うと、データを破損するおそれがあります。

メモリーカード残量表示

現在撮影できる動画の撮影可能時間を表示します。静止画の枚数も表示されます。

1 MENU→［セットアップ］→［メモリーカード残量表示］を選ぶ。

アップロード設定

市販のEye-Fiカードを使うときに、アップロード機能を使うかどうか設定します。
Eye-Fiカードがカメラに入っているときのみ表示されます。

1 MENU→［セットアップ］→［アップロード設定］→希望の設定を選ぶ。

✔	入	アップロード機能を使用する。 通信状態によって、画面上のアイコンが変わる。 待機中で、送信画像が無い 接続中 アップロード待機中 アップロード中 エラー発生
	切	アップロード機能を使用しない。

ご注意

- Eye-Fiカードはアメリカ、カナダ、日本、EUの一部の国で販売しています（2011年3月現在）。
- Eye-Fiカードに関する問い合わせは、その製造者・販売者に直接ご確認ください。
- Eye-Fiカードはご購入された国のみで使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- 飛行機の中ではEye-Fiカードを本機に入れないでください。入っている場合は［アップロード設定］を［切］にしてください。アップロード機能が［切］になっていると画面上にOFFが表示されます。

次のページにつづく↓

Eye-Fiカードを使って画像を転送する

1 Eye-Fiカードに無線LANアクセスポイントや転送先などを設定する。
詳しくはEye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。

2 設定が終了したEye-Fiカードをカメラに入れ、撮影する。
撮影した画像が、無線LANにより自動的にパソコンなどに送信される。

ご注意

- 新しいEye-Fiカードを初めて使うときは、カードをフォーマットする前に、カードに書き込まれているEye-Fiマネージャーのインストールファイルをパソコンにコピーしてください。
- Eye-Fiカードは、ファームウェアを最新版にバージョンアップしてからお使いください。バージョンアップについて詳しくは、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- アップロード中は、パワーセーブ機能は働きません。
- (エラー発生)が表示された場合は、メモリーカードを抜き差しするか、電源を入れ直してください。それでも表示される場合は、Eye-Fiカードが壊れている可能性があります。
- 無線LANの通信は他の通信機器の影響を受けることがあります。通信状態が良くないときは、接続先のアクセスポイントに近づいてください。
- アップロードできるファイルについては、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 本機はエンドレスモードに対応していません。Eye-Fi を使用する前に、エンドレスモードは必ずオフに設定してください。

テレビで見る

本機の画像をテレビで見るには、HDMIケーブル(別売)とHDMI端子のあるハイビジョンテレビが必要です。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

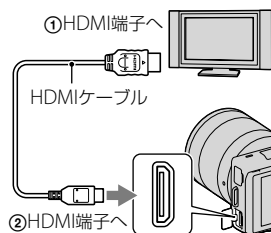
1 **本機とテレビの電源を切る。**

2 **本機とテレビをHDMIケーブル(別売)で接続する。**

3 **テレビの電源を入れ、入力切り換えをする。**

4 **本機の電源を入れ、▶(再生)ボタンを押して再生モードにする。**

撮影した画像がテレビに表示される。コントロールホイールで画像を選ぶ。

ご注意

- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- HDMI接続時は、動画撮影中および動画再生中のみ音声が出力されます。
- HDMIケーブルはHDMIロゴがついているものをお使いください。
- 本機側はHDMIミニ端子、テレビ側はテレビの端子にあったタイプのHDMIケーブルをお使いください。
- 本機と接続機器の出力端子同士を接続しないでください。故障の原因になります。
- HDMI接続時はピーキングが表示されません。

ブラビア プレミアムフォトについて

本機は"ブラビア プレミアムフォト"に対応しています。"ブラビア プレミアムフォト"に対応したソニー製テレビにHDMIケーブル(別売)で接続すると、テレビが静止画に適した画質に自動的に設定されます。写真を今までになかった感動のFull HD高画質で快適にお楽しみいただけます。詳しくは、対応テレビの取扱説明書をご覧ください。

- "ブラビア プレミアムフォト"とは、写真らしい高精細で微妙な質感や色合いの表現を可能にする機能です。

次のページにつづく↓

ブラビアリンクを使う

ブラビアリンク（リンクメニュー対応）のテレビをご利用の場合、HDMIケーブル（別売）で接続すると、テレビに付属のリモコンで再生操作ができます。

1 ブラビアリンクに対応したテレビと本機を接続する。

テレビの入力が自動で切り換わり、本機の画像が表示される。

2 リモコンのリンクメニューボタンを押す。

3 リモコンのボタンで操作する。

項目	説明
スライドショー	画像を自動的に連続再生する。
1枚再生	画像を1枚ずつ再生する。
一覧表示	一覧表示画面にする。
3D鑑賞	3D対応テレビと接続して3D画像を再生する。
ビューモード	再生する画像のグルーピング方法を設定する。
削除	画像を削除する。

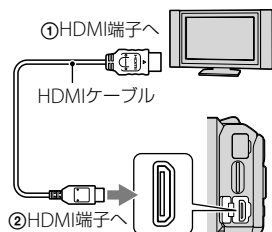
ご注意

- HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
- 2008年以降に発売されたブラビアリンク対応テレビで使用できます。また、リンクメニュー操作はお使いのテレビによって異なります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 他社のテレビとHDMI接続する際、テレビのリモコン操作でカメラが不要な動きをする場合は、MENU→［セットアップ］→［HDMI機器制御］→［切］にしてください。

3D鑑賞

3Dスイングパノラマ撮影した画像を、3D対応テレビで見るときに設定します。

1 **本機と3D対応テレビをHDMIケーブル(別売)でつなぐ。**

2 **MENU→［再生］→［3D鑑賞］→OKを選ぶ。**
撮影した3Dパノラマ画像がテレビに表示される。
[標準][ワイド]選択時は、コントロールホイールの中央を押すとスクロール再生になる。

ご注意

- 3D鑑賞時は3D画像のみ表示されます。
- 本機と接続機器の出力端子同士での接続はしないでください。映像や音声が出力されません。また、故障の原因となります。
- 一部の機器では、3D出力できない、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- HDMIケーブルはHDMIロゴがついているものをお使いください。
- 本機側はHDMIミニ端子、テレビ側はテレビの端子にあったタイプのHDMIケーブルをお使いください。

3D以外の画像をテレビで見るには

[3D鑑賞]を選ぶと、3D画像のみテレビに表示されます。
3D以外の画像を見るには、コントロールホイールの下を押して[3D鑑賞]を終了してください。
3D表示に戻すには、再度コントロールホイールの下を押します。
一覧表示にしたい場合は、MENU→［再生］→［一覧表示］を選んでください。

パソコンを使う

本機で撮影した画像をいっそうご活用いただくために、CD-ROM（付属）には以下のソフトウェアが収録されています。

- 「Sony Image Data Suite」
- 「PMB」（Picture Motion Browser）

ご注意

- 「PMB」は、Macintoshには対応しておりません。
- 同じソフトウェアをすでにインストールしているパソコンで、付属のCD-ROMのバージョンより小さい番号をご使用の場合は、付属のCD-ROMからもインストールしてください。

パソコンの推奨環境（Windows）

付属ソフトウェアを使ったり、USB接続で画像を取り込んだりするには下記の推奨環境が必要です。

OS（工場出荷時にインストールされていること）	Microsoft Windows XP* SP3/Windows Vista SP2/Windows 7 SP1
「PMB」使用時	**CPU：**Intel Pentium Ⅲ 800 MHz以上 （HD動画再生・編集時はIntel Core Duo 1.66 GHz以上、Intel Core 2 Duo 1.66 GHz以上、Intel Core 2 Duo 2.26 GHz以上（HD FX/HD FH）、Intel Core 2 Duo 2.40 GHz以上（HD PS）） **メモリー：**512 MB以上（HD動画再生・編集時は1 GB以上） **インストール時に必要なハードディスク容量：**約500 MB **ディスプレイ：**1024×768ドット以上
「Image Data Converter」使用時	**CPU/メモリー：**Pentium 4以上/1 GB以上 **ディスプレイ：**1024×768ドット以上

* 64bit版は除きます。ディスク作成機能のご使用には、Windows Image Mastering API（IMAPI）Ver.2.0 以上が必要です。

次のページにつづく↓

パソコンの推奨環境（Macintosh）

付属ソフトウェアを使ったり、USB接続で画像を取り込んだりするには下記の推奨環境が必要です。

OS（工場出荷時にインストールされていること）	**USB接続：** Mac OS X（v10.3 ～ v10.6） **「Image Data Converter」：** Mac OS X v10.5/Mac OS X v10.6（Snow Leopard）
「Image Data Converter」使用時	**CPU：** Intel Core Solo/Core Duo/Core 2 Duoなどのインテルプロセッサー **メモリー：** 1 GB以上を推奨 **ディスプレイ：** 1024×768ドット以上

ご注意

- 上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- Hi-Speed USB（USB2.0）のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送（hi-speed転送）が行えます。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

ソフトウェアを使う

インストールする（Windows）

コンピュータの管理者権限でログオンしてください。

1 パソコンの電源を入れた状態で、CD-ROM（付属）をCD-ROMドライブに入れる。

インストール画面が表示される。

- インストール画面が表示されないときは、[コンピュータ]（Windows XPでは[マイコンピュータ]）→ （SONYPMB）→ [Install.exe]の順にダブルクリックする。
- 自動再生画面が表示される場合は、「Install.exeの実行」を選択し、画面の指示に従ってインストールする。

2 [インストール]をクリックする。

「Sony Image Data Suite」と「PMB」にチェックが入っていることを確認して、画面の表示に従ってインストールする。

- 画面の指示に従ってカメラとパソコンを接続する（168ページ）。接続しないと画面の取り込み機能などが使えない場合もある。
- パソコンの再起動が必要な場合もある。再起動を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動する。
- 使用環境によって、DirectXが引き続きインストールされることがある。

3 インストール後、パソコンからCD-ROMを取り出す。

下記のソフトウェアがインストールされ、デスクトップにショートカットが表示される。

「Image Data Converter」
「Image Data Lightbox SR」
「PMB」
「PMBランチャー」
「PMBヘルプ」

ご注意

- 「PMB」をすでにインストールしているパソコンで、付属のCD-ROMのバージョンより小さい番号をご使用の場合は、付属のCD-ROMからもインストールしてください。
- お使いのパソコンに、すでにバージョン5.0.00未満の「PMB」がインストールされている場合は、本機に付属のCD-ROMから「PMB」をインストールすると、一部ご使用いただけなくなる機能があります。
- あわせてインストールされる「PMBランチャー」から「PMB」や他の様々なソフトウェアを起動できるようになります。「PMBランチャー」の起動には、デスクトップ上の （PMBランチャー）をダブルクリックします。

次のページにつづく↓

インストールする（Macintosh）

コンピュータの管理者権限でログオンした状態で行ってください。

1 **Macintoshの電源が入った状態で、CD-ROM（付属）をディスクドライブに入れる。**
2 **CD-ROMアイコンをダブルクリックする。**
3 **[MAC]フォルダーの中の[IDS_INST.pkg]を任意のフォルダーにコピーする。**
4 **コピー先のフォルダーの中の[IDS_INST.pkg]をダブルクリックする。**
   以降、画面の指示に従ってインストールを進め、完了する。

「Sony Image Data Suite」を使う

次のことなどができます。

- RAW画像を、トーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集
- ホワイトバランスや露出、クリエイティブスタイルなどの画像の調整
- 表示、編集した静止画をパソコンに保存
  RAWデータのまま保存する方法と、汎用ファイルフォーマット形式で保存する方法があります。
- 本機で撮影したRAW画像/JPEG画像の表示、比較
- 5段階でランク付け
- カラーラベルの設定など

詳しい使いかたはヘルプをご覧ください

「Sony Image Data Suite」のサポート情報
http://www.sony.co.jp/ids-sj/

「PMB」を使う

次のことなどができます。

- 本機で撮影した画像のパソコンへの取り込み、表示
- パソコンにある画像を、撮影日ごとにカレンダー上に整理して、閲覧
- 静止画の補正（赤目補正など）、プリント、メール送信、撮影日時の変更
- GPSユニット（別売）を利用して、撮影した画像の位置情報を地図上に表示
- 画像に日付を挿入して保存、印刷
- パソコンに取り込んだAVCHDビュー動画から、ブルーレイディスク、AVCHDディスクまたは、DVD-Videoディスクを作成（ブルーレイディスク、DVD-Videoディスクの初回作成時は、インターネット接続環境が必要です）

ご注意

- 「PMB」は、Macintoshには対応しておりません。
- [記録設定]を[60p 28M（PS）]にして撮影した動画は、「PMB」でのディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。
- [記録設定]を[60i 24M（FX）]/[24p 24M（FX）]にして撮影した動画は、「PMB」でのAVCHDディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。 そのままの画質で保存したいときはブルーレイディスクに保存してください。
- AVCHDビュー動画とは、[記録方式]を[AVCHD 60i/60p]にして撮影した動画です。

詳しい使いかたは「PMBヘルプ」をご覧ください

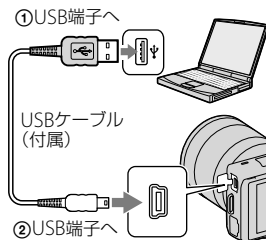
デスクトップ上の（PMBヘルプ）をダブルクリック、または[スタート] → [すべてのプログラム] → [PMB] → [PMBヘルプ]

「PMB」のサポート情報
http://www.sony.co.jp/pmb-sj/

本機とパソコンを接続する

1 **充分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター AC-PW20（別売）を使い、本機とコンセントを接続する。**

2 **本機とパソコンの電源を入れる。**

3 **本機とパソコンを接続する。**
初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。

画像を取り込んで見る（Windows）

「PMB」を使うと、簡単に画像を取り込めます。
「PMB」の機能について詳しくは、「PMBヘルプ」をご覧ください。

「PMB」を使わずに画像をパソコンに取り込むには

本機とパソコンを接続して自動再生ウィザードが起動したら、[フォルダを開いてファイルを表示] → [OK] → [DCIM]または[MP_ROOT]をクリックして、取り込みたい画像をパソコン内にコピーしてください。

ご注意

- AVCHDビュー動画を取り込むなどの操作には「PMB」を使用してください。
- 本機とパソコンを接続した状態で、パソコンから本機のAVCHDビュー動画ファイルやフォルダーを操作した場合、画像ファイルが壊れたり、再生できなくなることがあります。パソコンから本機のメモリーカード上のAVCHDビュー動画を削除したり、コピーしたりしないでください。このような操作をした結果に対し、当社は責任を負いかねます。
- AVCHDビュー動画とは、[記録方式]を[AVCHD 60i/60p]にして撮影した動画です。

次のページにつづく↓

画像を取り込んで見る（Macintosh）

1 本機とパソコンを接続したら［デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコン］→［取り込みたい画像の入ったフォルダ］の順にダブルクリックする。

2 画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ＆ドロップする。

ハードディスクに画像ファイルがコピーされる。

3 ［ハードディスクアイコン］→［画像ファイル］の順にダブルクリックする。

画像が表示される。

パソコンとの接続を切断する

以下の操作を行いたいときは、1 ～ 3の手順をあらかじめ行ってください。

- USBケーブルを抜く。
- メモリーカードを取り出す。
- 本機の電源を切る。

1 タスクトレイの切断アイコンをダブルクリックする。

2 （USB大容量記憶装置デバイス）→［停止］をクリックする。

3 取りはずすドライブを確認して、［OK］をクリックする。

切断アイコン

ご注意

- Macintosh使用時は、あらかじめメモリーカード、またはドライブのアイコンをごみ箱にドラッグ＆ドロップしてください。パソコンとの接続が切断されます。

動画のディスクを作成する

本機に記録したAVCHDビュー動画からディスクを作成することができます。

ディスクの作りかたを選ぶ

お使いの再生機器に合わせて、作りかたを選択してください。
「PMB」を使ったディスクの作りかたについての詳細は「PMBヘルプ」をご覧ください。
動画をパソコンに取り込むには、168ページをご覧ください。

再生機器	作りかた	ディスクの種類
ブルーレイディスク再生機器 （ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション 3など）	「PMB」を使ってパソコンに画像を取り込み、ブルーレイディスクを作る。	Blu-ray
AVCHD規格対応再生機器 （ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション 3など）	「PMB」を使ってパソコンに画像を取り込み、AVCHDディスクを作る。	AVCHD
	DVDirect Express 以外のDVDライター／レコーダーを使ってAVCHDディスクを作る。	
一般的なDVD再生機器 （DVDプレーヤー、DVD再生可能なパソコンなど）	「PMB」を使ってパソコンに画像を取り込み、標準画質（STD）のディスクを作る。	STD

ご注意

- ソニー製DVDirect（DVDライター）をお使いの場合、データの転送にはメモリーカードスロットとUSB接続が使えます。
- ソニー製DVDirect（DVDライター）を使うときは、DVDライターのファームウェアが最新版であることをご確認ください。
  詳しくは下記のURLをご覧ください。
  http://www.sony.jp/dvdirect/
- AVCHDビュー動画とは、[記録方式]を[AVCHD 60i/60p]にして撮影した動画です。

ディスクの説明

ブルーレイディスクには、ハイビジョン画質（HD）の動画をDVDディスクに比べ長時間記録できます。

ハイビジョン画質（HD）の動画をDVD-RなどのDVDディスクに記録して、ディスクを作成します。

- ハイビジョン画質のディスクは、ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション 3など、AVCHD規格対応再生機器で再生できます。一般的なDVDプレーヤーでは再生できません。

ハイビジョン画質（HD）の動画を標準画質（STD）に変換し、DVD-RなどのDVDディスクに記録して、ディスクを作成します。

「PMB」で使えるディスクの種類について

「PMB」では以下の12cmのディスクを使えます。ブルーレイディスクについては、173ページをご覧ください。

ディスクの種類	特徴
DVD-R / DVD＋R / DVD＋R DL	書き換えできません。
DVD-RW / DVD＋RW	書き換えて再利用できます。

- 「プレイステーション 3」のシステムソフトウェアは常に最新版にアップデートしてお使いください。アップデートの詳細は、株式会社ソニー･コンピュータエンタテインメントのウェブサイトをご覧ください。
  http://www.jp.playstation.com/ps3/update/

パソコンでAVCHDディスクを作る

付属のソフトウェア「PMB」を使って、パソコンに取り込んだAVCHDビュー動画をハイビジョン画質（HD）のAVCHDディスクに作成できます。

1 パソコンの電源を入れ、DVDドライブに未使用のディスクを入れる。

2 「PMB」を起動する。

3 ディスクに書き込むAVCHDビュー動画を選ぶ。

4 （ディスク作成）をクリックして[AVCHD（HD）作成]を選ぶ。

5 画面の指示に従ってディスクを作成する。

ご注意

- あらかじめ「PMB」をインストールしてください。
- 以下の画像はAVCHDディスクに記録できません。
  – 静止画
  – MP4動画
- ディスク作成には時間がかかることがあります。
- AVCHDビュー動画とは、[記録方式]を[AVCHD 60i/60p]にして撮影した動画です。
- [記録設定]を[60p 28M（PS）]にして撮影した動画は、「PMB」でのディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。
- [記録設定]を[60i 24M（FX）]/[24p 24M（FX）]にして撮影した動画は、「PMB」でのAVCHDディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。 そのままの画質で保存したいときはブルーレイディスクに保存してください。

AVCHDディスクをパソコンで再生するには

「PMB」と同時にインストールされる「Player for AVCHD」を使って再生できます。起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム] → [PMB] → [PMBランチャー] → [見る] → [Player for AVCHD]の順にクリックします。操作方法は「Player for AVCHD」のヘルプをご覧ください。

- パソコンの環境によっては、動画がなめらかに再生できないことがあります。

次のページにつづく ↓

ブルーレイディスクを作るには

パソコンに取り込んだAVCHDビュー動画から、ブルーレイディスクを作成できます。お使いのパソコンがブルーレイディスク作成に対応している必要があります。
ディスクは、BD-R（書き換え不可）、BD-RE（書き換え可）が使えます。追加記録はできません。
ブルーレイディスクを作成するには「PMB」のインストール画面で[BDアドオンソフトウェア]をインストールしてください。
インストールには、お使いのパソコンをインターネットに接続する必要があります。
詳しい操作方法については「PMBヘルプ」をご覧ください。

パソコンで標準画質（STD）のディスクを作る

付属のソフトウェア「PMB」を使って、パソコンに取り込んだAVCHDビュー動画を選び、標準画質（STD）のDVDディスクを作成できます。

1 パソコンの電源を入れ、DVDドライブに未使用のディスクを入れる。

- 「PMB」以外のソフトウェアが自動で起動した場合は終了する。

2 「PMB」を起動する。

3 ディスクに書き込む動画を選ぶ。

4 （ディスク作成）をクリックして[DVD-Video（STD）作成]を選ぶ。

5 画面の指示に従ってディスクを作成する。

ご注意

- あらかじめ「PMB」をインストールしてください。
- MP4動画はディスクに記録できません。
- AVCHDビュー動画を標準画質（STD）に変換するため、ディスク作成に時間がかかります。
- DVD-Videoディスクを初めて作成するときは、インターネット接続環境が必要です。
- AVCHDビュー動画とは、[記録方式]を[AVCHD 60i/60p]にして撮影した動画です。

次のページにつづく↓

パソコン以外の機器で動画ディスクを作成する

ブルーレイレコーダーやDVDライターでもディスクを作成することができます。
機器によって作成できるディスクの種類が異なります。

使用する機器		作成できるディスクの種類
	ブルーレイレコーダーを使ってブルーレイディスクや標準画質（STD）のディスクを作成する。	Blu-ray STD
	DVDirect Express以外のDVDライターを使ってAVCHDディスクまたは、標準画質（STD）のディスクを作成する。	AVCHD STD
	HDDレコーダーなどを使って標準画質（STD）のディスクを作成する。	STD

ご注意

- 作成方法の詳細は、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- ソニー製DVDirect（DVDライター）をお使いの場合、データの転送にはメモリーカードスロットとUSB接続が使えます。
- ソニー製DVDirect（DVDライター）を使うときは、DVDライターのファームウェアが最新版であることをご確認ください。
  詳しくは下記のURLをご覧ください。
  http://www.sony.jp/dvdirect/

静止画をプリントする

静止画をプリントするには、下記の方法があります。

- ダイレクトプリント（メモリーカード対応プリンター使用）
  詳しくは、プリンターの取扱説明書をご覧ください。
- パソコンを使ってプリント
  CD-ROM収録のソフトウェア「PMB」を使って画像をパソコンに取り込んでから、プリントします。日付を入れてプリントできます。詳しくは、「PMBヘルプ」をご覧ください。
- お店でプリント
  画像を撮影したメモリーカードをプリントサービス店に持参します。DPOF規格対応のお店でプリントするときは、再生メニューで **DPOF**（プリント予約）マークを付けて、プリントしたい画像を本機であらかじめ予約できます。

ご注意

- RAW画像はプリントできません。
- [16：9]で撮影した静止画は、プリント時に両端が切れる場合があります。
- お使いのプリンターによっては、パノラマ画像は印刷できません。
- お店でプリントするときは、以下の点にご注意ください。
  – 対応しているメモリーカードの種類はお店にお問い合わせください。
  – メモリーカード用のアダプター（別売）が必要な場合があります。お店にお問い合わせください。
  – プリントサービス店をご利用前に、必ずデータのバックアップを取ってください。
  – プリント枚数の設定はできません。
  – 日付を写真に挿入したいときは、お店にご相談ください。

故障かな？と思ったら

困ったときは、下記の流れに従ってください。

❶ 177 ～ 182ページの項目をチェックし、本機を点検する。

❷ バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。

❸ 設定リセットをする（150ページ）。

❹ 「α」オフィシャルサイトなどで確認する。 http://www.sony.jp/ichigan-e/ レンズ交換式デジタルカメラの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。 英語の取扱説明書のダウンロードもできます。 (English manual download service is available.)
「α」専用サポートサイトの最新サポート情報 （製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法など） http://www.sony.co.jp/DSLR/support/ **付属ソフトウェアのサポート情報** http://www.sony.co.jp/support-disoft/

❺ ソニーの相談窓口に電話で問い合わせる。

- 指定宅配便での修理品のお引き取り、修理後の製品のお届けまでを一括して行います。WEBサイトをご覧ください。
  http://www.sony.co.jp/di-repair/

次のページにつづく↓

バッテリー・電源

本機にバッテリーを入れられない。

- バッテリーの先端でロックレバーを押しながら入れてください。
- バッテリーはNP-FW50のみ使用できます。NP-FW50か確認してください。

バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。

- 温度が極端に高いまたは低いところで使用しているときの現象です。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください。
- バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

電源が入らない。

- バッテリーが正しく取り付けられているか確認してください。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください。
- バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

電源が切れる。

- 本機やバッテリーの温度によっては、カメラを保護するために、自動的に電源が切れることがあります。この場合は、電源が切れる前にメッセージが表示されます。
- 操作しない状態が一定時間続くと、省電力状態（パワーセーブ）になります。シャッターボタンを半押しするなどの操作をすれば、パワーセーブは解除されます（138ページ）。

バッテリー充電中、CHARGEランプが点滅する。

- バッテリーはNP-FW50のみ使用できます。NP-FW50か確認してください。
- 長時間使用していないバッテリーを充電すると、CHARGEランプが点滅することがまれにあります。
- 点滅パターンは、速い点滅（約0.15秒）と遅い点滅（約1.5秒）の2種類があります。速い点滅のときは、バッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを確実に取り付けてください。再び速い点滅をしたときは、バッテリーの異常が考えられます。遅い点滅のときは、充電に適した温度外で充電しているため、充電を一時停止した待機状態になっています。充電に適した温度範囲に戻れば充電を再開し、CHARGEランプは点灯になります。バッテリーの充電は周囲温度が10℃～30℃の環境で行うことをおすすめします。

次のページにつづく↓

撮影する

電源を入れても液晶モニターがつかない。

- 操作しない状態が一定時間続くと、省電力状態(パワーセーブ)になります。シャッターボタンを半押しするなどの操作をすれば、パワーセーブは解除されます(138ページ)。

シャッターが切れない。

- メモリーカードの誤消去防止スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。
- メモリーカードの空き容量を確認してください。
- フラッシュ充電中は撮影できません。
- レンズが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください。

撮影に時間がかかる。

- ノイズ軽減処理機能が働いています(120、121ページ)。故障ではありません。
- RAWモードで撮影しています(81ページ)。RAWモードでの撮影はデータ量が大きいため、撮影に多少時間がかかる場合があります。
- オートHDR処理中です(92ページ)。

ピント(フォーカス)が合わない。

- 被写体が近すぎます。レンズの最短撮影距離を確認してください。
- マニュアルフォーカスになっています。[フォーカス切換]を[オートフォーカス]にしてください(65ページ)。
- 光量が不足してます。
- オートフォーカスの苦手な被写体を撮ろうとしています。[フレキシブルスポット](67ページ)またはマニュアルフォーカス撮影を行ってください(65ページ)。

フラッシュ撮影ができない。

- フラッシュ発光部を持ち上げてください。
- フラッシュが正しく取り付けられていません。フラッシュをはずし、正しく取り付け直してください。
- 以下の撮影時は、フラッシュを使えません。
  - [連続ブラケット]
  - [スイングパノラマ]
  - [3Dスイングパノラマ]
  - [シーンセレクション]の[夜景][手持ち夜景]
  - [人物ブレ軽減]
  - 動画撮影

フラッシュ撮影した画像に、ぼんやりとした丸い斑点が写っている。

- 空気中のほこりがフラッシュの強い光に反射して写りこんだためです。故障ではありません。

フラッシュの充電時間が長い。

- 短時間に連続してフラッシュを発光させています。連続してフラッシュを発光すると、フラッシュ部が熱くなるのを防ぐため、通常より充電時間が長くなることがあります。

次のページにつづく↓

フラッシュ撮影した画像が全体的に暗い。

- フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）より撮影距離が遠い場合は、フラッシュ光が被写体に届かずに暗い画像となります。また、ISO感度を変更するとフラッシュの調光距離も変化します。

正しい撮影日時が記録されない。

- 日付・時刻を合わせてください（135ページ）。
- エリア設定で現在地と異なる場所が設定されています。MENU→［セットアップ］→［エリア設定］で設定し直してください。

シャッターボタンを半押しすると絞り値、シャッタースピードが点滅する。

- 被写体が明るすぎる、または暗すぎるため、本機の調整の範囲を超えています。設定し直してください。

画像が白っぽくなる（フレア）。
光のにじみが現れる（ゴースト）。

- 逆光で撮影したため、レンズに余分な光が入っています。ズームレンズ使用時はレンズフードを取り付けてください。

画像の隅が暗くなる。

- フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取りはずしてお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画像にフィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画像周辺部が暗く写る場合（光量低下）があります。この場合は［レンズ補正（周辺光量）］機能を使用することをおすすめします（122ページ）。

被写体の目が赤く写る。

- 赤目軽減モードにしてください（106ページ）。
- 被写体に近づいてフラッシュ調光距離内で撮影してください。

液晶モニターに点が現れて消えない。

- 故障ではありません。これらの点は記録されません。

画像がブレる。

- 暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こしています。シャッタースピードが遅くなるので、三脚またはフラッシュの使用をおすすめします（64ページ）。［シーンセレクション］の［手持ち夜景］（52ページ）、［人物ブレ軽減］（54ページ）も効果的です。

液晶モニターの露出補正値が点滅する。

- 被写体が明る過ぎる、または暗過ぎて、本機の測光範囲を超えています。

次のページにつづく↓

画像を見る

再生できない。

- パソコンでフォルダー /ファイルの名前を変更したためです。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生は保証いたしません。
- USBモードになっています。USB接続を終了してください(169ページ)。
- パソコン内の画像を本機で再生するには、「PMB」を使って画像をコピーしてください。

画像を削除する・編集する

削除できない。

- 画像のプロテクトを解除してください(101ページ)。

誤って消してしまった。

- 一度削除した画像は元に戻せません。誤消去を防止したい画像には、あらかじめプロテクトをかけてください(101ページ)。

DPOF指定マークが付かない。

- RAW画像にはDPOF指定マークを付けられません。

パソコン

最新サポート情報は、「α」専用サポートサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

対応しているOSがわからない。

- 「パソコンの推奨環境」を確認してください(163 ページ)。

本機がパソコンに認識されない。

- 本機の電源が入っているか確認してください。
- バッテリー残量が少ないときは、充電されたバッテリーを取り付けてください、またはACアダプター(別売)を使用してください。
- 接続には、付属のUSBケーブルをお使いください。
- 一度パソコンと本機からUSBケーブルを抜いて再びしっかりと差し込んでください。
- [USB接続]を[マスストレージ]にしてください(146ページ)。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずしてください。
- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続してください。

次のページにつづく↓

画像をコピーできない。

- 本機とパソコンを正しくUSB接続してください（168ページ）。
- OSに対応した手順でコピーしてください。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードで撮影した場合、画像をパソコンへコピーできないことがあります。本機でフォーマットしたメモリーカードで撮影してください。

画像を再生できない。

- 「PMB」をお使いの場合は、「PMBヘルプ」をご覧ください。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

動画を再生すると、画像や音が途切れる。

- メモリーカードから直接再生すると、画像や音が途切れます。「PMB」で画像を取り込んでファイルを再生してください。

USB接続をしたときに「PMB」が自動起動しない。

- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をしてください（168ページ）。

メモリーカード

本機に入らない。

- メモリーカードを入れる向きが違っています。正しい向きにして入れてください。

記録できない。

- メモリーカードの容量がいっぱいになっています。不要な画像を削除してください（30、96ページ）。
- 本機では使えないメモリーカードが入っています。

誤ってフォーマットしてしまった。

- フォーマットすると、メモリーカード内のデータはすべて削除され、元に戻せません。

プリントする

プリントできない。

- RAW画像はプリントできません。RAW画像をプリントするには、付属のCD-ROMに収録されている「Image Data Converter」でJPEG画像に変換してください。

画像の色合いがおかしい。

- Adobe RGBで撮影した画像を、Adobe RGB（DCF2.0/Exif2.21以降）に対応していないsRGB環境下のプリンターで印刷すると、低彩度な画像になります。

次のページにつづく ↓

両端が切れてプリントされる。

- プリンターによっては、画像の上下左右が切れることがあります。特に横縦比が[16：9]のときは、左右が大きく切れることがあります。
- お手持ちのプリンターでプリントする場合は、あらかじめトリミングやふちなしプリント機能を解除しておいてください。機能の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントする場合は、画像の両端が切れないようにプリントできるかどうか、あらかじめお店にお問い合わせください。

日付を入れてプリントできない。

- 「PMB」を使ってプリントすると日付挿入ができます。
- 本機には画像に日付を挿入できる機能はありませんが、画像には日付情報が記録されています。お使いのプリンターやソフトウェアがExif情報を認識できれば日付を入れてプリントできます。対応の有無は、各メーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントするときは、日付挿入を希望すれば、日付を入れてプリントできます。

その他

レンズがくもる。

- 結露しています。電源を切って約1時間そのままにしてからお使いください。

電源を入れると、「エリア/日付/時刻を設定してください」というメッセージが表示される。

- バッテリーが消耗したまま、または本機のバッテリーを取り出したまま放置したため、日時の設定が失われました。バッテリーを充電して、日時を再設定してください（135ページ）。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があるため、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

撮影残り画像数が減らなかったり、一度に2枚減ったりする。

- JPEG画像の場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変わるためです。

リセット操作をしていないのに、設定内容がリセットされる。

- 電源スイッチが「ON」のままバッテリーを取り出したためです。バッテリーは、電源スイッチを「OFF」にして、アクセスランプが点灯していないのを確かめてから取り出してください。

本機が正常に作動しない。

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直してください。温度が上がっているときは、いったんバッテリーを取りはずし、本機の温度が下がってからこれらの処置を行ってください。
- ACアダプター（別売）使用時は、一度電源コードを抜いて、電源を入れ直してください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にお問い合わせください。

次のページにつづく↓

画面に「--E-」が表示される。

- メモリーカードを一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合は、メモリーカードをフォーマットしてください（151ページ）。

タッチパネルのボタンが操作できない/正しく操作できない。

- 市販の保護フィルムを貼ると反応しないことがあります。
- 操作したい場所とは別の場所を触っていると、うまく操作できないことがあります。
- タッチパネルで操作きない画面もあります。その場合は、コントロールホイールなどのボタンで操作してください。

警告表示

画面に、次のような表示が出ることがあります。

対応バッテリーをお使いください

- 指定以外のバッテリーを使用しています。

エリア/日付/時刻を設定してください

- 日付と時刻を設定します。長時間使用していない場合は内蔵の充電式バックアップ電池を充電してください。

電池が少ないので実行できません

- イメージセンサーのクリーニングを実行するときに、バッテリー残量が少ないと実行できません。バッテリーを充電するか、ACアダプター（別売）をお使いください。

このメモリーカードは使えません　フォーマットしますか？

- パソコンでフォーマットを行い、ファイルシステムが変更されています。[実行]を選んでフォーマットを行ってください。本機で使用できるようになりますが、メモリーカード内のデータはすべて削除されます。また、フォーマットに多少時間がかかることがあります。それでもメッセージが出る場合は、メモリーカードを交換してください。

メモリーカードエラー

- 本機では使えないメモリーカードが入っています。または、フォーマットに失敗したためです。

メモリーカードを入れ直してください

- 本機では使えないメモリーカードが入っています。
- メモリーカードが壊れています。
- メモリーカードの端子が汚れています。

このメモリーカードは正常に記録・再生できない可能性があります

- 本機では使えないメモリーカードが入っています。

ノイズリダクション実行中

- 長秒時ノイズリダクションが機能した場合、シャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理を行います。この間は次の撮影はできません。長秒時ノイズリダクションは切ることもできます。

表示できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像や、パソコンで画像を加工した場合は表示できないことがあります。

次のページにつづく↓

レンズを認識できません　正しく装着してください

- レンズが取り付けられていない、または正しく装着されていません。レンズが付いているのにメッセージが表示される場合は、一度レンズをはずし、再度取り付けてください。また頻繁にメッセージが表示される場合は、レンズとカメラの接点端子に汚れがないかご確認ください。
- 天体望遠鏡などにカメラを取り付ける場合は、[レンズなし時のレリーズ]を[許可]にしてください(117ページ)。
- 手ブレ補正機能が作動していません。そのまま撮影できますが、手ブレ補正は機能しません。電源スイッチをいったん「OFF」にして、再度「ON」にしてください。それでも表示される場合は、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にお問い合わせください。

画像がありません

- 画像が記録されていないメモリーカードを再生しようとしています。

プロテクトされています

- プロテクトされている画像を削除しようとしています。

DPOF指定できません

- RAW画像をDPOF指定しようとしています。

しばらく使用できません　カメラの温度が下がるまでお待ちください

- 連続撮影したため、本機の温度が上昇しています。本機の電源を切って、本機の温度が下がり再び撮影可能になるのを待ってから撮影してください。

[!]

- 長時間撮影したため、カメラの温度が上がっています。撮影を終了してください。

FULL

- 本機で日付を管理できる枚数を超えています。

ERROR

- 本機の管理ファイルへの記録ができません。「PMB」で、すべての画像をパソコンに取り込み、メモリーカードを修復してください。

カメラエラー

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直してください。何度も繰り返す場合はソニーの相談窓口にお問い合わせください。

管理ファイルエラー

- 管理ファイルに何らかの異常が発生しています。[セットアップ]から[管理ファイル修復]を行ってください。

次のページにつづく↓

管理ファイルに不整合が見つかりました
修復しますか?

- 管理ファイルが破損しているため、AVCHDビュー動画の撮影、再生ができません。画面の指示に従い修復してください。AVCHDビュー動画とは、[記録方式]を[AVCHD 60i/60p]にして撮影した動画です。

この動画記録方式では撮影できません

- [記録方式]を[MP4]にしてください。

拡大できません
回転できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像は、拡大や回転ができないことがあります。

画像が指定されていません

- 画像を指定せずに、削除しようとしています。

指定が変更されていません

- 画像を指定せずに、DPOFを実行しようとしています。

これ以上フォルダー作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダーがメモリーカード内にあります。本機でこれ以上のフォルダーを作成できません。

海外で使うときは

バッテリーチャージャー(付属)やACアダプター AC-PW20(別売)は全世界(AC100V～240V・50Hz/60Hz)で使えます。ただし、地域によってはコンセントに差し込むための変換プラグアダプターが必要になる場合があります。あらかじめ旅行代理店などでおたずねの上、ご用意ください。

コンセント形状例	地域	変換プラグアダプター
	主に北米	不要
	主にヨーロッパ	必要

ご注意

• 電子式変圧器(トラベルコンバーター)は故障の原因となるので使わないでください。

カラーテレビ出力方式

本機で撮影した動画をテレビで見るには、本機と同じカラーテレビ方式(NTSC)が必要です。

NTSC方式

日本、アメリカ、エクアドル、カナダ、韓国、コロンビア、ジャマイカ、スリナム、台湾、中央アメリカ、チリ、バハマ、フィリピン、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、メキシコ、など

PAL方式

イギリス、イタリア、インドネシア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、クウェート、クロアチア、シンガポール、スウェーデン、スイス、スペイン、スロバキア、タイ、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、ニュージーランド、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、ベトナム、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マレーシア、ルーマニア、など

PAL-M方式

ブラジル

PAL-N方式

アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ

SECAM方式

イラク、イラン、ウクライナ、ギリシャ、フランス領ギアナ、フランス、ブルガリア、モナコ、ロシア、など

メモリーカードについて

本機で使用できるメモリーカードは、"メモリースティック PRO デュオ"、"メモリースティック PRO-HG デュオ"、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードです。マルチメディアカードは使用できません。

ご注意

- パソコンでフォーマットしたメモリーカードは、本機での動作を保証しません。
- お使いのメモリーカードと機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。
- データの読み込み中、書き込み中にはメモリーカードを取り出さないでください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  – 読み込み中、書き込み中にメモリーカードを取り出したり、本機の電源を切った場合
  – 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどへバックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモリーカード本体およびメモリーカードアダプターにラベルなどを貼らないでください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。
- 長時間使用した直後のメモリーカードは熱くなっています。ご注意ください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  – 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  – 直射日光のあたる場所
  – 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所
- SDXCカードに記録した映像は、exFATに対応していないパソコンやAV機器などに、本機とUSBケーブルで接続して取り込んだり再生したりすることはできません。接続する機器がexFATに対応しているかを事前にご確認ください。対応していない機器に接続した場合、フォーマット（初期化）を促す表示が出る場合がありますが、決して実行しないでください。内容がすべて失われます。（exFATは、SDXCカードで使用されているファイルシステムです）

次のページにつづく↓

“メモリースティック”について

本機で使用できるものは下記のとおりです。ただし、すべての”メモリースティック”の動作を保証するものではありません。

種類	使用可否	
“メモリースティック PRO デュオ”[*1*2*3]	本機で使用可能です。	SONY MEMORY STICK PRO DUO
“メモリースティック PRO-HG デュオ”[*1*2]		
“メモリースティック デュオ”	本機では使用できません。	SONY MEMORY STICK DUO
“メモリースティック” “メモリースティック PRO”	本機では使用できません。	SONY

*1 マジックゲート搭載の“メモリースティック デュオ”です。“マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。

*2 パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しています。

*3 “メモリースティック PRO デュオ”で動画を撮影するときは、Mark2マークの付いたもののみ使えます。

“メモリースティック マイクロ”(別売)使用上のご注意

- 本製品は“メモリースティック マイクロ”(“M2”)に対応しています。“M2”は“メモリースティックマイクロ”の略称です。
- “メモリースティック マイクロ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティック マイクロ”をデュオサイズのM2アダプターに入れてからお使いください。デュオサイズのM2アダプターに装着されていない状態で挿入されますと、“メモリースティック マイクロ”が取り出せなくなる可能性があります。
- “メモリースティック マイクロ”は小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。

使用可能な“メモリースティック”についての最新情報は、ホームページ上の「“メモリースティック”対応表」をご確認ください。
http://www.sony.co.jp/mstaiou/

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーについて

本機は"インフォリチウム"バッテリー NP-FW50のみ使用できます。それ以外のバッテリーは使えません。"インフォリチウム"バッテリー Wシリーズには InfoLITHIUM W マークがついています。
"インフォリチウム"バッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
"インフォリチウム"バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を%単位で表示します。

充電について

周囲の温度が10℃～30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影、動画撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消費が早くなります。
- 撮影には予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。

バッテリーの残量表示について

バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、本機で使い切ってから再び充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、充電完了後そのまま放置したりした場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。残量表示は目安としてお使いください。

次のページにつづく↓

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために、1年に1回程度充電して本機で使い切り、その後本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、スライドショーを再生して、電源が切れるまでそのままにしてください。
- 本機から取り出したバッテリーは、接点汚れ、ショート等を防止するため、携帯・保管時は必ずポリ袋などに入れて金属から離してください。

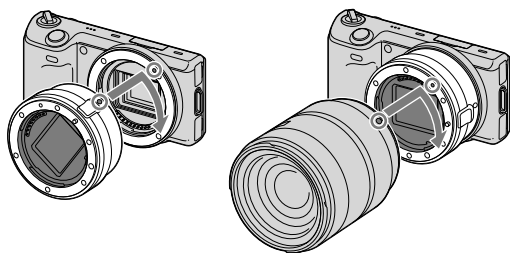
バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをお買い上げください。
- 寿命は、保管方法や使用状況、環境、バッテリーごとに異なります。

バッテリーチャージャーについて

- バッテリーチャージャー（付属）で、NP-FWタイプ以外のバッテリーを充電しないでください。指定以外のバッテリーを充電すると、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂、感電の原因となり、やけどやけがをするおそれがあります。
- 充電したバッテリーはバッテリーチャージャーから取り出してください。そのまま取り付けていると、バッテリーの寿命を損なうことがあります。
- 付属のバッテリーチャージャーのCHARGEランプには以下の2つの点滅パターンがあります。
  速い点滅・・・・・・約0.15秒の点灯と消灯を繰り返す
  遅い点滅・・・・・・約1.5秒の点灯と消灯を繰り返す
- CHARGEランプが速い点滅をしている場合は充電中のバッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを確実に取り付けてください。再びCHARGEランプが速く点滅した場合は、バッテリーの異常、または指定以外のバッテリーが挿入された場合が考えられます。指定のバッテリーかどうか確認してください。指定のバッテリーを挿入している場合は、一度バッテリーを抜き、新品のバッテリーなど別のバッテリーを挿入してバッテリーチャージャーが正常に動作するか確認してください。バッテリーチャージャーが正常に動作する場合はバッテリーの異常が考えられます。
- CHARGEランプが遅い点滅をしている場合は充電を一時停止した待機状態になっています。充電に適した温度範囲外にある場合は自動的に充電を一時止め待機状態になります。充電に適切な温度範囲に戻れば充電を再開し、CHARGEランプは点灯になります。バッテリーの充電は周囲温度が10 ℃～ 30 ℃の環境で行うことをおすすめします。
- バッテリーチャージャーが汚れていると正常に充電できないことがあります。乾いた布などで汚れを拭き取ってください。

マウントアダプターについて

マウントアダプター（別売）を使うと、Aマウントレンズ（別売）も本機に取り付けられます。
詳しくはマウントアダプターの取扱説明書をご覧ください。

マウントアダプターの種類によって使用できる機能が異なります。

機能	LA-EA1	LA-EA2
オートフォーカス	SAM、SSMレンズでのみ可能*	可能
AF方式	コントラストAF	位相差AF
フォーカス切換	レンズ側の操作スイッチで切り換え	SAM、SSMレンズはレンズ側の操作スイッチで切り換え。それ以外のレンズはメニューで設定可能。
オートフォーカスエリア	以下の中から設定可能（マルチ/中央重点/フレキシブルスポット）	以下の中から設定可能（ワイド/中央に固定/ローカル）
オートフォーカスモード	シングル固定	以下の中から設定可能（シングル/コンティニュアス）

* Aマウントレンズ装着時のオートフォーカスは、Eマウントレンズ装着時より遅くなります。（約2秒～約7秒（当社測定条件に基づいて撮影した場合）。被写体や撮影時の明るさなどにより変わる場合があります。）

次のページにつづく↓

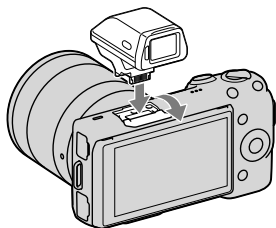
マウントアダプターの種類によって、[オートフォーカスエリア]で選べる設定が異なります。

LA-EA1	
(マルチ)	25個のフォーカスエリアのうち、どこをピント合わせに使うかを自動的に決定する。
(中央重点)	常に中央部のフォーカスエリアでピントを合わせる。
(フレキシブルスポット)	コントロールホイールの上下左右を使ってフォーカスエリアを移動させ、小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせる。
LA-EA2	
(ワイド)	15個のフォーカスエリアのうち、どこをピント合わせに使うかを自動的に決定する。
(中央に固定)	常に中央部のフォーカスエリアでピントを合わせる。
(ローカル)	15個のフォーカスエリアからピントを合わせるフォーカスエリアをコントロールホイールで選ぶ。

ご注意

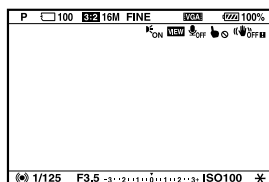
- お使いいただけないレンズや、オートフォーカスできないレンズもあります。レンズの互換性は、「α」専用サポートサイトでご確認ください。
  http://www.sony.co.jp/DSLR/support/
- マウントアダプター使用中に動画を撮影するとき、オートフォーカスはシャッターボタンを半押しして行ってください。
- Aマウントレンズ使用時はAF補助光は発光しません。
- 動画記録中はカメラやレンズの作動音、操作音などが記録されてしまうことがあります。
  MENU→ [セットアップ] → [動画音声記録] → [切]で音声を記録しないように設定できます。
- お使いのレンズや被写体によっては、ピント合わせに時間がかかったりピントが合いにくい場合があります。

電子ビューファインダーについて

電子ビューファインダー（別売）を本機のスマートアクセサリーターミナル2に取り付けると、ファインダーをのぞいて撮影することができます。
詳しくは電子ビューファインダーの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 電子ビューファインダー使用時はタッチパネル操作できません。

画面表示

電子ビューファインダーでは主要な項目のみ表示されます。アイコンの意味は15ページをご覧ください。

ご注意

- 電子ビューファインダー表示時は液晶モニターは表示されません。
- 電子ビューファインダーで長時間使い続けると電子ビューファインダーの温度が上昇します。FINDER/FINDERが表示され、自動的に液晶モニターでの表示に切り換ります。
- 電子ビューファインダーの接続エラー警告（FINDER ERROR）が表示されたときは、電子ビューファインダーを接続しなおしてください。

AVCHD規格について

「AVCHD」規格は、高効率の圧縮符号化技術を用いて、1080i方式*[1]や720p方式*[2]のHD（ハイビジョン）信号を記録するハイビジョンデジタルビデオカメラ用に開発された規格です。映像圧縮にはMPEG-4 AVC/H.264方式を、音声にはドルビーデジタル方式、または、リニアPCM方式を採用しています。
MPEG-4 AVC/H.264方式は、従来の画像圧縮方式に比べ、さらに高い圧縮効率を持った優れた方式です。この方式により、8cmDVDディスク、ハードディスクドライブ、フラッシュメモリ、メモリーカードなどにデジタルビデオカメラの高画質なハイビジョン映像信号を記録することができます。

本機での記録・再生について

本機ではAVCHD規格に基づき、以下の仕様でHD（ハイビジョン）記録ができます。

映像*[3]：**1080 60i対応機**
MPEG-4 AVC/H.264 1920×1080/60i、1920×1080/24p
1080 50i対応機
MPEG-4 AVC/H.264 1920×1080/50i、1920×1080/25p

音声：ドルビーデジタル2ch

記録メディア：メモリーカード

*[1] 1080i 有効走査線数1080本、インターレース方式のハイビジョン規格
*[2] 720p 有効走査線数720本、プログレッシブ方式のハイビジョン規格
*[3] 本機は、上記以外のAVCHD規格で記録されたデータの再生には対応していません。

本体のお手入れについて

カメラ本体の清掃

- レンズ信号接点などマウントの内側にある本機の内部の部品には触れないでください。マウント内側のほこりは市販のブロアー *で吹き飛ばしてください。イメージセンサーの清掃は147ページをご覧ください。

  * スプレー式のブロアーは故障の原因となりますので使用しないでください。
- その他、本体表面の清掃は、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下はご使用にならないでください。
  - シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類
  - 上記が手についたまま本機を扱うこと
  - ゴムやビニール製品との長時間の接触

レンズの清掃

- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面を清掃するときは、市販のブロアーでほこりなどを取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけないでください。

索引

目次
撮りたい写真から探す
メニューから探す
索引

次のページにつづく↓

タ行

ナ行

ハ行

次のページにつづく↓

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

次のページにつづく↓

記号・数字順

ライセンスに関する注意

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアである「C Library」、「zlib」、「libjpeg」が搭載されております。当該ソフトウェアの著作権者様の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。
ライセンス内容に関しては、同梱CD-ROMに記載されていますので、以下に示す方法にしたがって、内容をご一読くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
CD-ROMの「License」フォルダにある「license3.pdf」をご覧ください。「C Library」、「zlib」、「libjpeg」の記載（英文）が収録されています。

本製品は、 MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているAVC PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：

(i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、 MPEG-4 AVC規格に合致したビデオ信号（以下、 AVC VIDEOといいます）にエンコードすること。
(ii) AVC Video（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。
なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、 MPEG LA, LLC.のホームページをご参照ください。

GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License（以下「GPL」とします）または、 GNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）の適用を受けるソフトウェアが含まれております。お客様は添付のGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。
ソースコードは、 Webで提供しております。
ダウンロードする際には、以下のURLにアクセスしてください。
http://www.sony.net/Products/Linux/
なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

ライセンス内容に関しては、同梱CD-ROMに記載されていますので、以下に示す方法にしたがって、内容をご一読くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
CD-ROMの「License」フォルダにある「license2.pdf」をご覧ください。「GPL」、「LGPL」の記載（英文）が収録されています。
PDFをご覧になるにはAdobe Readerが必要です。パソコンにインストールされていない場合には下記のホームページからダウンロードすることができます。
http://www.adobe.com/